

## 令和2年度 三重県日本語教育実態調査 報告書

令和3(2021)年2月  
公益財団法人三重県国際交流財団

### 目次

I 調査概要	1
II 調査結果	2
A. 市町	2
B. 国際交流協会	9
C. 地域の日本語教室(子どもの学習支援を除く)	13
D. 日本語教育機関(日本語学校)	34
E. 高等教育機関	41
F. 企業	46
G. 日本語学校や日本語教室に通っていない外国人住民	56
H. 日本語教室の学習者	64
【資料】	73



## I 調査概要

### 1. 調査の趣旨

三重県内の日本語教育の一層の向上を図るため、県内における日本語教育の実態や外国人住民のニーズを把握し、「三重県日本語教育推進計画(仮称)」策定のための基礎資料とする。

### 2. 調査方法

#### ①日本語教育の実態調査

調査票による調査(郵送、メール)

#### ②外国人ニーズ調査

調査票による調査(郵送、メール)、街頭調査

使用言語:日本語・ポルトガル語・ベトナム語・中国語・フィリピン語・スペイン語・タイ語・英語・インドネシア語

### 3. 調査期間 令和2(2020)年9月～12月

### 4. 調査対象(および回答数)

#### ①日本語教育の実態調査

対象者	調査数	回答数	回収率(%)
A.市町	29	29	100.0
B.国際交流協会	12	10	83.3
C.地域の日本語教室(子どもの学習支援を除く)	34	28	82.4
D.日本語教育機関(日本語学校)	5	4	80.0
E.高等教育機関	9	7	77.8
F.企業	108	68	63.0

#### ②外国人ニーズ調査

対象者	調査数	回答数	回収率(%)
G.日本語学校や日本語教室に通っていない外国人住民 ※3ヵ月未満の滞在者、子ども、学生は除く	105	105	-
H.日本語教室の学習者	64	64	-

### 5. その他

- 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- 指定した選択数(例:3つまで選んでください等)以上が選択されている場合においても、有効回答としてすべて計上した。
- 自由記述回答において、同じ回答が複数得られた場合は( )に数を記載した。
- 個人および機関が特定される名称や記述については、適宜修正または削除を行った。
- 得られた記述回答は、できる限り原文のまま掲載したが、必要に応じて文体や用語の統一、誤字・脱字の修正、説明の補足等を行った。
- 結果についての分析は、太線黒枠内に記述した。
- 本報告書の分析の記述においては、「日本語ボランティア」という名称は使用せず、日本語教室で日本語学習の支援をしている人を「学習支援者」とする。ただし、自由記述等については、回答での表記のままとした。
- 本報告書にて言及されている「日本語能力試験」については以下を参照のこと。

○日本語能力試験 認定の目安

<https://www.jlpt.jp/about/levelsummary.html>

## Ⅱ 調査結果

### A. 市町

#### [貴市町における日本語教室について]

問1 貴市町内に日本語教室がありますか。

	回答数	%
①ある	14	48.3
②ない	11	37.9
③把握していない	4	13.8
計	29	100.0

半数近くの市町に日本語教室があるとの結果であったが、一方、管轄エリアにおける日本語教室の有無について把握していないとの回答が4つあった。外国人住民は県内に広く在住しており、集住地域だけではなく、散在地域における日本語教育の実態の把握が望まれる。

#### [貴市町における日本語教育施策について]

問2 貴市町において行政として外国人住民に対する日本語教育に関連した事業を実施していますか。

	回答数	%
①実施している	11	37.9
②実施していない	18	62.1
計	29	100.0

実際に日本語教育に関連した事業を実施している市町は4割弱であり、実施していない市町のほうが多い。

問3 (問2で「実施している」市町において)どのような事業を行っていますか。(複数回答)

回答	回答数	%
①日本語教室を主催している	3	27.3
②他団体が開催している日本語教室に助成金や補助金を交付している	9	81.8
③他団体が開催している日本語教室に会場の無償提供や割引制度を実施している	3	27.3
④日本語学習支援者(日本語ボランティア)を対象とした研修(入門講座、ブラッシュアップ講座など)を主催している	3	27.3
⑤日本語学習支援者(日本語ボランティア)として活動したい方を登録する制度がある	0	0.0
⑥日本語教室や個人の日本語学習希望者に、日本語学習支援者(日本語ボランティア)の紹介や派遣をしている	0	0.0
⑦オリジナルの日本語学習教材の作成や無料配布をしている	1	9.1
⑧日本語学習用のテキストや教材の貸出をしている	1	9.1
⑨その他(自由記述) ・他団体が日本語学習支援者(日本語ボランティア)を対象とした研修(入門講座、ブラッシュアップ講座など)を開催している。 ・市民活動団体と協働で開催し、会場使用料やボランティアに対する講師謝金、消耗品等の支払いの他、日本語ボランティアやボランティア希望者に対して養成講座を開催。	2	18.2

日本語教育に関連した事業として、助成金や補助金の交付を行う市町が多く、日本語教室の主催、日本語教室に対する会場の無償提供や割引、学習支援者を対象とした研修を実施している市町が複数ある。

問4 (問2で「実施している」市町において)地域の日本語教育に関連する事業において、他団体(国際交流協会、大学などの高等教育機関、NPO、地域の日本語教室、日本語学校、企業等)との連携や協力を行っていますか。

	回答数	%
①行っている	9	81.8
(連携先の種別)※自由記述		
・国際交流協会	(6)	
・民間の国際交流協会	(1)	
・地域の日本語教室	(5)	
・その他	(1)	
(内容)※自由記述		
・日本語教室の開催	(5)	
・日本語教室への指導ボランティアの派遣	(1)	
・助成金や補助金の交付	(2)	
・市と日本語教室の代表者が集まり、市からの情報、日本語教室での課題などを情報共有するネットワーク会議を開催している。	(1)	
(課題)※自由記述		
・コロナに伴う課題がある。		
・ボランティアの確保		
・事業充実に即した連携協力		
・スタッフの高齢化や脱退による人材・担い手の不足、新規スタッフの獲得。新型コロナウイルス感染症の影響で教室の開催に大きな支障があり、ICTを活用した日本語教育環境を整備する必要があるが、そのための財源やノウハウが不足している。		
・日本語学習支援員の不足		
・現状は運営ができていますが、後継者の育成が課題である。		
②行っていない	2	18.2
計	11	100.0

「①行っている」と回答したうち、その連携先団体は、ほとんどが国際交流協会もしくは地域の日本語教室であり、大学や高等教育機関、民間の日本語学校や企業との連携はない。国際交流協会や地域の日本語教室は、市が運営している場合も多く、このことから、実質的に外部団体と連携・協力した日本語教育はあまり行われていないといえる。課題については、後継者も含めた、学習支援者の不足が挙げられているとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大にともなう影響がみられる。

問5 地域の日本語教育に関して、今後どのような事業や支援が必要だとお考えですか。

(3つまで選択)

	回答数	%
①日本語教室の新設や拡充	3	10.3
②日本語教室に対する助成金や補助金の交付	6	20.7
③日本語教室に対する会場の無償提供や割引制度の実施	2	6.9
④日本語学習支援者(日本語ボランティア)を対象とした研修の実施(入門講座、ブラッシュアップ講座など)	3	10.3
⑤日本語学習支援者(日本語ボランティア)の確保	16	55.2
⑥専門的な日本語指導者の育成や確保	8	27.6
⑦日本語教室や個人の学習希望者に、日本語学習支援者(日本語ボランティア)を紹介・派遣するシステムの構築・整備	4	13.8
⑧地域の日本語教育に適したオリジナルの日本語学習教材の作成や配布	0	0.0
⑨日本語学習用のテキストや教材の貸出	0	0.0
⑩他団体(国際交流協会、大学などの高等教育機関、NPO、地域の日本語教室、日本語学校、企業等)との連携や協力の促進	5	17.2
⑪日本語学習者または学習希望者からの相談対応	6	20.7
⑫日本語学習支援者(日本語ボランティア)からの相談対応	1	3.4
⑬日本語教育に関する有益な情報やリソースの提供	8	27.6
⑭特に必要な事業や支援はない	3	10.3
⑮その他	1	3.4

#### [日本語教育コーディネーターについて]

日本語教育コーディネーターとは「日本語教育の現場で日本語教育プログラムの策定・教室運営・改善を行ったり、日本語教師や日本語学習支援者に対する指導・助言を行うほか、多様な機関との連携・協力を担う者」(※)とされている。また、特に地域において行政や地域の関係機関等との連携の下で活動するものを、「地域日本語教育コーディネーター」としている。

※「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版」,文化審議会国語分科会(平成31年3月4日)

問6 貴市町には専属の「日本語教育コーディネーター」、もしくはそのような役割を担っている方がいますか。

	回答数	%
①いる	3	10.3
②いない	26	89.7
計	29	100.0

問6-2(「①いる」と回答した市町において)業務の内容を教えてください。(複数回答)

	回答数	%
①日本語教育プログラムの策定・実施、運営及び改善	2	66.7
②日本語学習支援者に対する指導・助言	1	33.3
③日本語学習支援者との学習者のマッチング	2	66.7
④日本語学習支援者の養成や研修の企画・実施等	1	33.3
⑤他団体との連携や協働を図る活動	2	66.7
⑥その他	0	0.0

問6-3(「②いない」と回答した市町において)「日本語教育コーディネーター」は必要だと思われませんか。

	回答数	%
①必要だ (理由)※自由記述 ・日本語教室の運営をボランティアに依存している部分が多いから。 ・専門的立場から、地域における日本語教育の推進に関わってほしい。 ・日本語教室の安定した運営、支援者への技術的支援のため。 ・配置は行いたい、言語が多岐に渡るのでコーディネーターとして確保するのが難しい。	4	15.4
②必要でない (理由)※自由記述 ・コーディネーターを活用する事業がない。	1	3.8
③どちらともいえない／わからない (理由)※自由記述 ・外国人の住民が少ないため。 ・現在の日本語教室の規模では必要ではないが、今後、在住外国人が増加し、日本語教室が拡大していく場合、円滑に教室を運営していく上では必要になる。	20	76.9
無回答	1	3.8
計	26	100.0

問7 もし、「日本語教育コーディネーター」を貴市町で活用できるとしたら、どのような業務を依頼したいと思われませんか。(自由記述)

● 日本語教育プログラムの策定、日本語支援者に対する研修会の実施、日本語教室に関する情報提供や日本語支援者の斡旋、一般の方への日本語学習支援者についての啓発活動。
● 地域における日本語教室の問題把握と課題発掘。その上で、体制整備に向けた活動の推進。自治体や日本語教室、その他地域団体等とのネットワークの推進。
● 在住外国人が増加していく中で、日本語教室事業を円滑に実施していくために、日本語学習支援者に対する指導・助言をしてほしい。また、学校教育課とも連携し、学習支援ボランティアへの日本語学習支援に対する指導・助言をしてほしい。
● 日本語学習支援者に対する指導・助言、日本語学習支援者の養成や研修の企画・実施。
● 日本語教室の運営及び改善のため、受講者のニーズ等現状の分析や改善策の立案～実施を学習支援者に対しての提言。学習意欲向上と継続のための受講者支援。日本語学

習だけでなく、外国人受講者の生活全般の相談者としての役割。
● 日本語学習支援者と学習者のマッチング。
● 外国人住民の様々な日本語学習意欲(基礎的な日本語、生活に必要な日本語、日本語能力試験への合格など)に併せた日本語教室運営。
● 日本語学習支援者に対する指導・助言。
● 日本語教室の新設。
● 日本語教育に対する統一的な考えがないため、日本語教育の指導マニュアル策定に携わっていただきたい。
● 日本語教育コーディネーターがどのようなものかイメージできない。

現在、県内において「日本語教育コーディネーター」の役割を担っている者がいる市町や、コーディネーターが必要だと明確に考えている地域は非常に少なかったが、問7では、コーディネーターに依頼したい業務として、具体的な回答が多くあった。これまで三重県では日本語教育コーディネーターの育成や配置を行っておらず、「どのようなものかイメージできない」ため、必要かどうかははっきりわからないとしているが、実際には、コーディネーターが多くの地域で必要とされている状況であるといえる。今後は、日本語教育コーディネーターの育成と活動の機会を設けることで、その専門性と役割について広く周知していくことが重要だと思われる。

### [三重県日本語教育推進計画(仮称)について]

問8 外国人住民が働きやすく暮らしやすい環境づくりに向けて、①市町としてできること・支援したいと考えていること、②県への期待や要望、③他団体(国際交流協会、大学などの高等教育機関、NPO、地域の日本語教室、日本語学校、企業等)への希望や提案など、自由にご意見をご記入ください。(自由記述)

①市町による支援や役割
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 相談窓口での柔軟な対応や日本語を学ぶ場所の提供。</li> <li>● (協会が行っている)日本語教室事業への支援。在住外国人への周知、日本語学習支援者の確保のための周知。</li> <li>● 日本語教室存在の周知を図る。</li> <li>● 日本語学習支援者への実態に即した報償費の確保。</li> <li>● 地域に住む外国人の生活を支える行政機関として、日本語の習得のみならず、地域で暮らすために必要な知識や情報を提供する。</li> <li>● 日本語学習室などの確保の協力。</li> <li>● 引き続き、日本語教室を通じて、日本語教育の支援を行う。</li> </ul>
②県への要望等
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本語教室における学習支援者の養成、各教室への経済的な支援。</li> <li>● 各市町の日本語教室が充実できるような支援(日本語学習支援のための補助金等)。</li> <li>● 日本語教室のほとんどが、営利を目的としない、民間のボランティア団体である。県としても日本語教育を推進するのであれば、市町に任せるのではなく、県側も教室への支援(運営費の助成など)をお願いしたい。</li> <li>● 日本語学習支援者への講習の充実。</li> <li>● 日本語学習支援者の資質向上のための研修会の実施。</li> <li>● 広域での日本語教室、日本語教師育成講座やボランティアの育成講座の開催。</li> </ul>



- 簡単な日本語学習用のテキストや教材の配布。
- 県内の日本語教室間の情報交換の場の提供。
- 県庁舎内の空部屋の提供をいただければ、駐車場もあり、日中の交通の便が良い。
- 県として、外国人市民の日本語習得について、実現的かつ具体的な施策を、計画に明記していただきたい。
- 市町が関わる日本語教室は、その市町在住の学習希望者が優先されてしまう。また、日本語教室がない空白地域があることから、県でも公益財団法人三重県国際交流財団に事業委託するなど、日本語教室を開講していただきたい。
- 三交代勤務、また、教室の場所が遠いなど、日本語を学びたくても、様々な理由で日本語教室に通えない外国人市民が存在する。日本語教育推進法に基づき、雇用する外国人等及びその家族に対する日本語学習の機会の提供その他の日本語学習に関する支援に努めることについて、県の労働部局や商工会議所、中小企業団体などの関係機関と連携し、雇用主に対する働きかけをお願いしたい。
- 企業内での従業員に対する日本語習得の機会の提供のことについて、県としても国への働きかけをお願いしたい。

### ③他団体への要望や提案

- 外国人を雇用している地域の企業においても、独自の日本語教室の開催や地域住民との交流の場の創造を通じた多文化共生の取り組みの実施。
- 市内4教室は全てボランティア活動で運営しており(うち1教室は市から補助金を支出)、学習者から少額の授業料を徴収している教室はあるものの、会場費の捻出など運営が厳しい状況である。学習者には技能実習生が多く、年々増加しているため、外国人労働者を雇用している企業からの日本語教室運営への協力・支援、企業での日本語指導や日本語教室の実施など必要であると感じる。
- 技能実習生等外国人受け入れ企業との連携促進。
- 企業内での従業員に対する日本語習得の機会の提供。
- 企業と連携した日本語学習機会の提供のあり方について、調査してもらいたい。本来は、企業として日本語学習の支援を行ってもらいたいが、労働を提供するだけの関係であって、企業にとっても魅力がある、利益があることとして認識してもらえないので、実質的な経費負担等を軽減する、又は、企業のイメージアップにつながるように、協力企業を表彰するなどの工夫も必要。
- 講師派遣事業や教室運営補助金等があれば、企業も使いやすいのではないかと。
- 市内にある高等学校と協力し、次代を担う学生と外国人住民との交流機会を増やしてはどうか。
- (協会が運営している)日本語教室事業の充実。

### ④その他

- 国際化協会の組織力強化。
- 移住後の生活基盤が整うまでの間、最低限のサポートといったこと。
- 当町に在住している外国人の多くは、限られた業種で働いており、その就職先でのサポートがしっかりしているため、町をあげての日本語教育の必要性を感じていない。しかしながら、今後は介護現場での外国人受け入れを視野に入れていきたいと考えており、今の段階では具体的な計画はないが、何か有益な情報があれば参考にしたい。

県への要望として大きく2つに分けることができる。1つは、日本語学習支援者の育成や教室運営への経済的支援、教材の配布や空白地域における教室の開講といった「日本語教室への直接的な支援」であり、もう1つは「外国人雇用企業と連携した日本語教育支援」である。他団体への要望も、その多くは企業との連携を望むものであった。裏を返せば、多くの日本語教室に技能実習生をはじめとした外国人労働者が増えており、それにより市町や日本語教室が負担を感じているという実態がうかがわれる。

問9 他団体や企業等と連携した日本語教室の開催について関心がありますか。

	回答数	%
①関心がある	10	34.5
②関心がない	5	17.2
③わからない	12	41.4
④その他	2	6.9
計	29	100.0

問4で明らかになったように、ほとんどの市町が日本語教育事業において外部の団体と連携・協力をした実績がないことから、実際にどのようなことが可能なのかがイメージがつかめず、「③わからない」という回答がもっとも多くなったと思われる。

### [その他]

問10 新型コロナウイルス感染症の拡大により、貴市町の日本語教育に関する事業において影響がありましたら、具体的に教えてください。(自由記述)

- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う施設休館のため、日本語教室を休止することなどがあつた。また学習者においても雇用先の企業から、外出自粛等の指示があるなど参加者が減少した。また再開にあたり、マスク・消毒液等の臨時経費が必要となつた。
- 4～6月にかけて、日本語教室が休止となつた。現在でも、休止している日本語教室があり、また、再開した日本語教室は感染症対策により学習者を制限している。その反面、勤務時間を減らされた、または失業した外国人市民が日本語を学びたいという要望が出ている。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大によって、休講、再開を繰り返しており、また学習者も支援者もコロナに対する不安があり、継続的に日本語学習を支援していくのが難しい状況である。
- 当初予定していた今年度の日本語教室の開講ができておらず、新型コロナウイルス感染症の状況によっては今年度の開催ができなくなる可能性がある。コロナ禍でも日本語学習希望者はいるので、教室形式だけにこだわらず、開催の仕方を検討する必要がある。
- 開講が2か月遅れて開催した。受講人数により、ソーシャルディスタンス確保の工夫が必要になつた。
- 2019年3月より日本語教室の活動を休止している。参加者にはALTが多く、今年度帰国する方も多いうえに、新たに後任者が来る見込が現在ないため、参加人数が少なく、コロナが収まっても、しばらくは再開できるのかが未定。
- 感染症拡大防止の観点から一時期は3つの教室すべてを休止していた。現在は1教室のみ休止し、2教室で再開している。なお、再開に際して、市から各教室へアルコール消毒液、非接触式体温計、マスク、ゴミ袋、ゴム手袋を支給した。
- 6月または7月から全教室再開。1教室については、8・9月休止。
- 日本語教室が3月から12月まで休講になつた。
- 一部の授業を中止していた。

問11 本調査についてご意見・ご質問等ありましたらご記入ください。(自由記述)

- 日本語教室は、地域の居場所づくりに貢献しており、複数あるのが望ましい。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響について尋ねたところ、緊急事態宣言などを受けて、多くの日本語教室が活動を休止せざるを得なくなったという回答があった。学習者も学習支援者も不安を抱えており、参加者数を制限するなどの対策をとっているところもある。他方、コロナ禍によって勤務時間が減少したり失業したりした外国人住民から、日本語を学びたいという要望も受けており、今後の対応や教室のあり方に悩む声が聞かれた。

## B. 国際交流協会

### [日本語教室について]

問1 貴協会管轄エリアに日本語教室がありますか。

	回答数	%
①ある	8	80.0
②ない	1	10.0
③把握していない	1	10.0
計	10	100.0

### [貴協会における日本語教育事業について]

問2 貴協会において外国人住民に対する日本語教育に関連した事業を実施していますか。

	回答数	%
①実施している	8	80.0
②実施していない	2	20.0
計	10	100.0

問3 (問2で「実施している」協会において)どのような事業を行っていますか。(複数回答)

	回答数	%
①日本語教室を主催している	7	87.5
②他団体が開催している日本語教室に助成金や補助金を交付している	0	0.0
③他団体が開催している日本語教室に会場の無償提供や割引制度を実施している	0	0.0
④日本語学習支援者(日本語ボランティア)を対象とした研修(入門講座、ブラッシュアップ講座など)を主催している	4	50.0
⑤日本語学習支援者(日本語ボランティア)として活動したい方を登録する制度がある	4	50.0
⑥日本語教室や個人の日本語学習希望者に、日本語学習支援者(日本語ボランティア)の紹介や派遣をしている	1	12.5
⑦オリジナルの日本語学習教材の作成や無料配布をしている	0	0.0
⑧日本語学習用のテキストや教材の貸出をしている	2	25.0
⑨その他(自由記述回答) ・小3~中3の学習補助を行う学習支援ボランティア事業 ・日本語学習の補助教材を発行している ・日本語教室の学習者を対象とした交流イベントを行っている	3	37.5

多くの国際交流協会が日本語教室を主催しており、学習支援者を対象とした研修の開催や学習支援者の登録を行っていることが明らかになった。

問4 (問2で「実施している」協会において)地域の日本語教育に関連する事業において、他団体(行政機関、大学などの高等教育機関、NPO、地域の日本語教室、日本語学校、企業等)との連携や協力を行っていますか。

	回答数	%
①行っている	3	37.5
(連携先の種別)※自由記述 ・市 ・地域の日本語教室 ・大学	(1) (2) (1)	
(内容)※自由記述 ・イベントの共催など(市) ・ボランティア養成講座の共同開催(地域の日本語教室) ・ボランティア養成講座の講師依頼(大学)		
(課題)※自由記述なし		
②行っていない	5	62.5
計	8	100.0

問5 地域の日本語教育に関して、今後どのような事業や支援が必要だとお考えですか。  
(3つまで選択)

	回答数	%
①日本語教室の新設や拡充	1	10.0
②日本語教室に対する助成金や補助金の交付	3	30.0
③日本語教室に対する会場の無償提供や割引制度の実施	2	20.0
④日本語学習支援者(日本語ボランティア)を対象とした研修の実施(入門講座、ブラッシュアップ講座など)	3	30.0
⑤日本語学習支援者(日本語ボランティア)の確保	5	50.0
⑥専門的な日本語指導者の育成や確保	3	30.0
⑦日本語教室や個人の学習希望者に、日本語学習支援者(日本語ボランティア)を紹介・派遣するシステムの構築・整備	2	20.0
⑧地域の日本語教育に適したオリジナルの日本語学習教材の作成や配布	0	0.0
⑨日本語学習用のテキストや教材の貸出	1	10.0
⑩他団体(国際交流協会、大学などの高等教育機関、NPO、地域の日本語教室、日本語学校、企業等)との連携や協力の促進	2	20.0
⑪日本語学習者または学習希望者からの相談対応	1	10.0
⑫日本語学習支援者(日本語ボランティア)からの相談対応	0	0.0
⑬日本語教育に関する有益な情報やリソースの提供	1	10.0
⑭特に必要な事業や支援はない	1	10.0
⑮その他	0	0.0

日本語教室を主催している国際交流協会が多いことから、学習支援者の確保と育成、専門的な日本語指導者の育成や確保といった、人材面での支援が特に必要とされていると考えられる。

[日本語教育コーディネーターについて]

問6 貴協会には専属の「日本語教育コーディネーター」、もしくはそのような役割を担っている方がいますか。

	回答数	%
①いる	2	20.0
②いない	8	80.0
計	10	100.0

問6-2(「①いる」と回答した協会において)業務の内容を教えてください。(複数回答)

	回答数	%
①日本語教育プログラムの策定・実施、運営及び改善	1	50.0
②日本語学習支援者に対する指導・助言	2	100.0
③日本語学習支援者と学習者のマッチング	2	100.0
④日本語学習支援者の養成や研修の企画・実施等	1	50.0
⑤他団体との連携や協働を図る活動	1	50.0
⑥その他	0	0.0

問6-3(「②いない」と回答した協会において)「日本語教育コーディネーター」は必要だと思いますか。

	回答数	%
①必要だ (理由)※自由記述 ・日本教育基本法が制定され、地域における日本語教育を社会全体で推進していく必要があるから。	1	12.5
②必要でない (理由)※自由記述 ・他団体(日本語教室)の協力を得ているから。	1	12.5
③どちらともいえない／わからない	5	62.5
無回答	1	12.5
計	8	100.0

問7 もし、「日本語教育コーディネーター」を貴協会で活用できるとしたら、どのような業務を依頼したいと思われますか。(自由記述)

● 日本語学習支援者の育成。日本語を母語とする人がそうでない人(外国にルーツを持つ人など)と接する時の日本語講習(日本人が気づかない日本語の難しい点を学ぶ)。
● オンラインを使った教室運営の指導。人材の養成と研修プログラムの指導。
● 日本語学習支援者への指導など。
● 日本語教育プログラムの策定。日本語指導者に対する研修会の実施。日本語教室に関する情報提供や日本語指導者の斡旋。
● 日本語学習支援者と学習者のマッチング。
● (学習者と接するにあたり)学習支援者が気を付けるべき点などがあれば教えていただきたい(文化や国柄の違いなど)。
● 日本語教育推進法にもとづいた企業への働きかけ。地域社会と日本語教室をつなぐための事業。生活者としての外国人が日本語で思いを発表できる場づくり。県、他市町等との連携。「やさしいにほんご」の普及(サークル、新聞作成等)。

市町の回答同様、日本語教育コーディネーターの役割についてはあまり認識されていないが、問7の回答のとおり、実際にはコーディネーターを必要としている協会が多いと思われる。

### [三重県日本語教育推進計画(仮称)について]

問8 外国人住民が働きやすく暮らしやすい環境づくりに向けて、①協会としてできること・支援したいと考えていること、②県への期待や要望、③他団体(行政機関、大学などの高等教育機関、NPO、地域の日本語教室、日本語学校、企業等)への希望や提案など、自由にご意見をご記入ください。(自由記述)

<b>①協会による支援や役割</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 協会として多様な日本語の学びを推進するために情報発信をしたいと考えている。また、市と連携して現在開催されている日本語教室の活動を側面から支援したい。</li> <li>● 市と共同した各種事業の開催。</li> </ul>	
<b>②県への要望等</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 簡単な日本語学習用のテキストや教材の配布。</li> <li>● 日本語教室における学習支援者の養成、各教室への経済的支援。</li> <li>● 日本語教育コーディネーターをきちんとした身分で採用し、中長期的な視点で三重県の日本語教育を進めていただきたい。そして、生活者としての外国人のための日本語教育を進めていくことや、市町間の連携や研修等を実施していただきたい。</li> </ul>	
<b>③他団体への要望や提案</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 他団体の中でも、大学や日本語学校は、留学生や学びたいと考える外国人市民にとって大切な存在である。三重県で活躍する人材の育成にも取り組めればと考えている。</li> <li>● 外国人を雇用している地域の企業の方が日本語教室を利用する際の、協会活動への賛同についての働きかけ。</li> </ul>	
<b>④その他</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 助成金や補助金の交付。</li> <li>● ボランティアさんの確保(ボランティアさんが増えるような学習支援)。</li> <li>● コロナ禍で課題となったのが、学習支援をオンラインにすれば普段交通手段がない人も参加できるが、オンライン環境が整わないこと。</li> <li>● 大人も然りだが、子どもたちの日本語力の向上の機会をもっと増やしてあげたい。特に家庭で日本語話者がいない場合など。</li> <li>● 技能実習生や技術・人文知識・国際業務の在留資格で来日している外国人が、日本語教室に自らの意思で学びに来られる方はいいのだが、会社側から地域の日本語教室に行くことを強制したり、組合が地域の日本語教室を勧めるのはどうかと思う。本来であれば会社が日本語教室を設けて、さらに学習を行いたい外国人が地域の日本語教室に来るべきではないか。</li> <li>● 現在の日本語教室の場所が2022年3月でなくなる。今まで通り中心部での安い教室場所の確保を望んでいる。</li> </ul>	

問9 他団体や企業等と連携した日本語教室の開催について関心がありますか。

	回答数	%
①関心がある	4	40.0
②関心がない	1	10.0
③わからない	4	40.0
④その他(自由記述) ・事務局に十分な人数がいらないため、連携することは難しい。	1	10.0
計	10	100.0

[その他]

問10 新型コロナウイルス感染症の拡大により、貴協会の日本語教育に関する事業において影響がありましたら、具体的に教えてください。(自由記述)

● 教室の休止(一定期間)、再開後の人数減少。
● 今年度は休講中。ボランティアさんや生徒さんの安全を第一に考えてのこと。
● 2019年3月より日本語教室の活動を休止している。参加者にはALTが多く、今年度帰国する方も多いうえに、新たに後任者がくる見込が現在ないため参加人数が少なく、コロナがおさまっても、しばらくは再開できるのかが未定。
● 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う施設休館のため、日本語教室を休止することがあった。
● 日本語教室の実施を中止していた期間がある。
● 毎週土曜日実施の学習支援教室は3月～5月まで休校した(子どもたちのリスクもあるし、ボランティアの平均年齢が高いことも懸念されたため)。それにより、昨年度中3だった生徒の進路の結果等をすべては把握できずにいる。また、例年行っている修了式も実施できなかった。6月に再開し、生徒たちは概ね元通りに参加するようになった。
● 従来のような形でなかなか事業が実施できなかった。本年は、試行的にオンラインで事業を開催するなど新たな取り組みをした。
● 4月～5月に対面で開催予定であった「日本語学習支援ボランティア養成講座」が延期となり、DVDを視聴しながらの受講となった。

問11 本調査についてご意見・ご質問等ありましたらご記入ください。

※回答なし

三重県においては、国際交流協会を市町、あるいは市町の教育委員会に設置されているケースが多く、「B.国際交流協会」に対する調査について「A.市町」と同じ担当者が回答しているところが5件あった。そのため、市町と同じ回答内容が散見されたが、全体的な回答の傾向は類似しているといえる。

C. 地域の日本語教室(子どもの学習支援を除く)

[日本語教室の概要について]

○主催団体

	回答数	%
①市町	2	7.1
②国際交流協会	10	35.7
③NPO 法人	0	0.0
④民間団体・ボランティアグループ	14	50.0
⑤会社	0	0.0
⑥その他	2	7.1
計	28	100.0

○開催日時 ※自由記述回答を、教室の開始時間と曜日により分類した。数字は教室数。

開始時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	不定期
午前	2	4	4	2	3	3	6	
午後(18時まで)	2	3	4	2	3	3	5	
夜間(18時以降)		2	5	4	1	4	1	1

○教室の期間

	回答数	%
①通年性	24	85.7
②年〇期制(例 2期、3期制など) ※自由記述 ・開講期間 3月～12月 ・2期制:春 入門講座、秋 初級講座 ・2期制:1期 2月末～7月末、2期 8月末～12月末	3	10.7
無回答	1	3.6
計	28	100.0

○教室の休止期間 ※自由記述回答をもとに分類。複数の回答あり。

	冬休み (年末年始)	春休み	夏休み (お盆休み)	祝日	(教室がある) 施設の休館日	その他	なし
回答数	23	5	16	4	4	3	3

○学習者の参加費

	回答数	%	金額(自由記述)	回答数
無料	9	32.1	0円	9
有料/毎回	7	25.0	100円	4
			200円	1
			220円	1
			250円	1
有料/毎月	7	25.0	100円	1
			200円	1
			500円	4
			2,000円	1
有料/每期	1	3.6	入門 3,500円、初級 3,000円	1
有料/その他	4	14.3	300円/年	1
			5,000円/年	1
			600円/5回	1
			1,000円/5回	1
計	28	100.0		28

○学習支援者への謝金等の有無

	回答数	%	内訳(自由記述)	回答数
①あり	11	39.3	交通費実費のみ	1
			交通費として150円/回支給	1
			交通費補助	1
			年間経費を差し引いた後、余剰金があれば参加回数に応じて交通費を支払う	1
			500円/回	3
			556円/回	1
			メインスタッフ:3,000円/回、サブスタッフ:1,000円/回	1
			謝金 10,000円/回、交通費別途支給 3,000円/年	1
②なし	17	60.7		
計	28	100.0		11



○対象とする学習者について

	回答数	%
①誰でも参加できる	21	75
②参加条件がある	7	25
※②についての具体的な記述 ・基本的に子どもは受け付けないが、高学年で日本語学習に特化すれば受ける場合もある。 ・18歳以上、(当該地域の)市民のみ。 ・小さいお子さんが同席での参加は不可。 ・成人(例外あり)。 ・大人は市内在住・在勤者(当該地区の方優先)、N3資格者まで、子ども:市内の小中学生(当該地区の小中学校優先)。 ・当該地区の住民のみ。 ・中学生以上は受講費を払う。		
計	28	100

○参加人数の定員

	回答数	%
①定員あり(人数は自由記述)	4	14.3
・10人まで	(2)	
・15人まで	(1)	
・記述なし	(1)	
②なし	23	82.1
無回答	1	3.6
計	28	100.0

○教室運営のための財源について(複数回答)

	回答数	%
①学習者からの参加費	17	60.7
②主催団体の自主財源	5	17.9
③参加ボランティアの拠出金	1	3.6
④外部からの委託費(委託者名は自由記述)	2	7.1
・市	(1)	
・記述なし	(1)	
⑤外部からの助成金(助成金名は自由記述)	13	46.4
・市	(4)	
・国際交流協会	(5)	
・社会福祉協議会	(1)	
・ボランティア活動助成金	(1)	
・一般助成	(1)	
・記述なし	(1)	
⑥外部からの寄付金	0	0.0
⑦その他(自由記述)	1	3.6
・会場(エアコン、コピー含む)を無償提供してもらっている。		

日本語教室の多くは、学習者の負担は無料、もしくは1回あたり250円以下の少額であるが、そのわずかな参加費が貴重な財源となっている。学習支援者への謝金等は6割以上が「なし」であった。外部からの助成金を活用している教室は半数近くあったが、多くが市や国際交流協会からのものであった。教室の運営資金が非常に限られていることがうかがわれる。

○教室の活動目的(自由記述)

● 市内に住む外国人の方々が、日本語が少しでも上手になって、日本で生活を充実させてほしい。生活上どうしても言葉(日本語)の壁に突き当たっている人がたくさんいると思う。
● 日本語を学びながら、文化交流を行い、お互い理解し、生活を楽しむことを目的とする。
● 日本語を勉強したいと思っている外国の方に、日本語の学びの場を提供する。日本人と交流を持つことで、日本に対する理解を深める。
● 地域在住外国人の日本語習得の支援と国際交流の推進
● 外国人を対象とした日本語指導・外国人同士の交流、日本の生活文化を教えること。
● 外国人市民と日本人市民が相互の理解を深め、地域で安心して生活するために市民ボランティアの協力を得て、外国人市民の日本語習得を支援する。
● 日本語を教えることによって外国人と日本人の相互理解を深め、多文化共生社会づくりを支援している。
● 地域で豊かに暮らすための日本語を学習する。地域の人と顔の見える関係を作る。
● 大人:日本で生活するために必要な日本語(ひらがな・カタカナ・漢字)会話を学ぶ。 子ども:学校の学習に必要な日本語や生活・文化を伝える。
● 日本人と外国人の交流を円滑に行い、日本での生活を補助していく。
● 地域に住む外国人のサポート(言葉、仕事、在留資格など)が中心だが、地域との交流イベントなども今後やっていきたい。
● 日本語がわからないことで暮らしにくさを感じる人を減らす。日本人と外国人の交流を通じて相互理解を深める。
● 在留外国人が日本語学習をすることにより、日本人と良好な意思の疎通ができるように、結果日常生活や職場で不自由な場面を極力減らせるように支援する。公共料金、子供の学校からの通知など、理解できないものの持ち込みには説明をする。年に2~3回短縮授業後ささやかにお茶会などを開く。
● 生活に必要な日本語の習得。
● 外国人が生活基盤を築くための日本語学習の手助け。
● 周辺在住の外国人への日本語学習サポート。文化・生活様式他の相談にも応じ、暮らしやすくするよう支援に努める。
● 外国人への日本語指導。
● 外国人住民を対象に、日本人ボランティア講師の指導による日本語教室を開講することにより、外国人住民の日本語の習得を図ることはもとより、ボランティア講師や他の学習者を通じ外国人住民が地域で孤立せず生活できるよう支援する。(3)
● 外国人の方々の日本語学習の支援をする。
● 外国人の日本語能力向上と、日本人と外国人の交流を深めること。
● 在住外国人と交流を深め、日本で少しでも快適に過ごせるよう日本語学習を支援する。
● 外国人が日本で暮らすお手伝い。
● 在住外国人への日本語教育および情報提供。日本人と外国人の交流、相互理解。多文化共生社会の実現に向けての働きかけ。
● 会員相互の親睦、日本語およびその指導法(特に同地在住又は勤労の外国人対象)の勉強、併せて国際交流の取り組み、地域振興への貢献を目指す。
● 目的は「外国人住民と地域住民がともに暮らしやすいまちを目指し、外国人住民や地域住民の支援を行う」ことであり、その活動の一環として、外国人住民に対して、日本語の習得に対する支援を目的に、さまざまな人々との交流や相談ができる拠点として、センターを身近に感じてもらうことを願っている。

日本語教室の活動目的は、外国人と日本人の「交流」および「相互理解」、そして外国人が日本で「生活していくための日本語習得支援」の3つが主なキーワードとなっている。

[学習者について]

問1 学習者の募集方法について教えてください。(複数回答)

	回答数	%
①教室のウェブサイト	10	35.7
②Facebook, LINE, Twitter, Instagram などの SNS	14	50.0
③教室のチラシを配布	13	46.4
④市町のウェブサイトや広報誌に掲載	18	64.3
⑤三重県国際交流財団のウェブサイトに掲載	17	60.7
⑥地域のコミュニティセンターなどでのチラシ設置	10	35.7
⑦外国人がよく行くスーパーや飲食店などへのチラシ設置	9	32.1
⑧外国人を雇用している企業等へのチラシ配布	4	14.3
⑨その他(自由記述) ・地区内の小学校入学説明会、保育園・幼稚園・小学校中学校の連絡会議で案内する。施設への来館者・地区担当コーディネーターによる外国人市民宅の戸別訪問時に案内する。 ・市役所からの紹介、社協からの紹介、ロコミ。 ・現在活動している外国人のロコミ。 ・外国人コミュニティでのロコミ。	4	14.3

問2 最近3年間(2017年度~2019年度)の学習者の増減傾向について教えてください。

	回答数	%
①増えた	8	28.6
②少し増えた	6	21.4
③ほぼ横ばい	9	32.1
④少し減った	4	14.3
⑤減った	1	3.6
計	28	100.0

問2-2 国籍や年代、職業や家族構成などについて、増減傾向に特徴があれば教えてください。また、その理由として考えられることなどをお聞かせください。(自由記述)

【①または②について】

ベトナム人の増加
● 最初のころ、ブラジル人が多かった。今ベトナム人が多い。日本の外交に関係があるのだろうか。
● 市、および周辺地域のベトナム人実習生が増えた。また、勉強に来ている学習者のロコミで新たにベトナム人が来るようになった。
● ベトナム人が増加。
● ベトナム人が多い(9割くらい)。アメリカ人、ネパール人、スリランカ人など。
● 当施設で日本語を学習している外国人の友達や同僚などがロコミで登録に来ることが多く、在留資格「技術・人文知識・国際業務」の方々の登録が以前より増えている。
● フィリピン・インドネシア・ベトナム等、アジアの新興国出身の技能実習生が増加。
● ベトナム人が特に増えている。ALTが少し増えている。
● ベトナムやインドネシアの実習生が増えた。年代は、20歳代が多くなった。ブラジル人、ペルー人などの南米日系人も参加しているが、少なくなっている。国際結婚で夫、または妻が来ることもある。日系ブラジル人、ペルー人たちは、通訳や翻訳が充実してきて、日本語が出来なくても困らなくなったから、学習しなくなったのではないか。
● 企業で働いている方たちに情報が届きにくい(こちらがどの企業にニーズがあるのか)

把握できない)が、ベトナム人のコミュニティとつながることができたのをきっかけに口コミで参加者が増えていった。参加者側も(日本語教室を)探していたけれど、経済的に負担がない範囲で学べる場所が見つからないという人が多かった(日本語学校など塾に行く余裕がない)。市の講座は登録しても順番が回ってこない(ボランティアが少ないため)とのことだった。
<b>ブラジル人、ペルー人の増加</b>
● 近くに大きなお弁当工場など、複数の食品工場ができ、派遣会社からブラジル人が多く派遣されている。
● 2019年度だけが、ペルー人とブラジル人が増えた。
● ポルトガル語を話す指導者が来たことにより、彼のブラジル人の友人が来るようになった。
<b>その他</b>
● 中国・タイ・ベトナムが減少、ミャンマー・フィリピンが増加。理由は不明(ほとんどが技能実習生なので、雇う会社側の関係か)。
● 子どものフォローができるサポーターに来てもらっているため、子どもと一緒に来る人が増えた。また、家族や親戚と一緒に来る人が増えた。子どもと一緒に勉強できるようになったことが増加の一因と考えられる。
● 開館日数を学習者からのニーズにより増やしたことが考えられる(平日のほか、2018年4月から月2回の日曜日開館を毎週土曜日開館に変更した)。
● 企業でのエンジニア、技能実習生が多い(9割くらい)。英語教師、夫赴任中の妻など。
● 技能実習生の参加が主であり、近年技能実習生が増加しているから。
● 25~30歳が多い。
● エンジニアなど技能実習生以外の人、国際結婚などで日本に来た外国人が増えた。

### 【③について】

● 残業のため学習者が日本語教室へ来られないことも多いが、できる限り参加しようとしている。国に帰って通訳になる、また、日本語を生かした仕事に就く、といった将来の夢を実現するためN3、N2に合格することをめざして熱心に勉強を続けている(中級クラスの場合)。
● 世界的、または日本の自然災害、経済状況に左右される。過去は派遣法改正、リーマンショック、東日本大震災、研修生から実習生への労働者受け入れ条件の変更など。今年に入って新型コロナウイルス蔓延。常にそれぞれの影響を受け、国籍、職業、家族構成の変化も起こる。各原因により様々な分野での影響は表れてくる。現在は特に世界規模の出入国が厳しくなっており、外国人労働者にとっては仕事減少のみならず、帰国を希望しても自由にならない現実がある。当教室では実習期間が過ぎたにもかかわらず新型コロナウイルスの影響で帰国ができない実習生がいる。幸い会社の善意で生活には苦勞していないのが支援者にとっても慰めである。
● 本教室に参加する方は、南米出身の方が多数で性別も様々である。アジア圏の方は、既婚女性。年代はまちまちである。近年、アジアの方が少しずつ増えているように感じる。
● ベトナム人が増加、ベトナム人技能実習生、労働者の増加。
● 技能実習生等が多いため、近隣の企業の意向により国籍は変動する。
● 半数以上が近隣のALTで、アメリカ人の参加者が多い。

【④または⑤について】

● コロナのため自国に帰った人々が戻って来られなくなっているようだ。
● 2年程前はインドネシアの方が多かった(大学の留学生)。現在はゼロ。中国系の方は毎年多め。
● 仕事の都合で辞めざるを得なくなった。

問3 昨年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の日本語教室を開催した回数、および貴教室に参加した学習者の延べ人数を教えてください(おおよその数字で可)。

教室の開催数 (回答 27 教室)	参加した学習者 延べ人数 (回答 27 教室)	人数の内訳		
		大人	子ども (高校生まで)	不明
6,740 回(※)	21,131 人	18,947 人	615 人	0 人

※随時行われるマンツーマンレッスンを個々に数えたため、5,216回と報告した教室があった。

問4 昨年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)、教室に参加した学習者の出身国を教えてください。参加回数に関わらず、1度でも参加した方の国について、すべて回答してください。

国名	参加を確認した教室の数
ベトナム	26
中国	22
フィリピン	20
ブラジル	18
ペルー	18
インドネシア	15
ボリビア	11
アメリカ	10
タイ	10
ネパール	9
パキスタン	7
スリランカ	6
ミャンマー	6
インド・韓国・台湾・バングラデシュ・メキシコ	各 5
イギリス・カナダ・カンボジア・モンゴル	各 4
オーストラリア・トルコ・フランス・リビア	各 2
アフガニスタン・アルゼンチン・イタリア・ウガンダ・ギリシア・キルギス・ケニア・ジャマイカ・ジンバブエ・スーダン・スペイン・チュニジア・チリ・ドイツ・ニュージーランド・パラグアイ・ベネズエラ・マルタ・ラオス・ロシア	各 1
計46か国	

令和元年12月末現在の県内外国人住民の国籍数は110か国となっており、日本語教室にはその4割以上の国の人が参加していることになる。

問5 教室への参加時に、学習者に参加申込書や登録用紙などへの記入をお願いしていますか。

	回答数	%
①している	28	100.0
②していない	0	0.0
③その他	0	0.0
計	28	100.0

問6 教室への参加時に、学習者の個人情報についてどのようなことを確認していますか。

(複数回答)

	回答数	%
①氏名	28	100.0
②国籍・地域	27	96.4
③生年月日	15	53.6
④性別	19	67.9
⑤住所	28	100.0
⑥電話番号	23	82.1
⑦メールアドレス	10	35.7
⑧母語や使用言語	17	60.7
⑨来日時期	17	60.7
⑩在留資格	7	25.0
⑪在留期限	8	28.6
⑫職業	21	75.0
⑬日本語学習の目的	19	67.9
⑭日本語学習歴	15	53.6
⑮日本語能力試験の合格有無	13	46.4
⑯日本語のレベル	17	60.7
⑰その他	9	32.1
※その他の自由記述		
・年齢	(2)	
・SNS (LINEなど)	(2)	
・カタカナによる氏名の読み方	(1)	
・ニックネーム	(1)	
・紹介者名	(1)	
・希望クラス	(1)	
・家族構成	(1)	
・緊急連絡先	(1)	
・困っていることや知りたいこと	(1)	

すべての教室で、学習者の氏名・住所を確認しており、8割以上が連絡先として電話番号を把握していた。国籍や地域その他、職業を聞いているところも多いことがわかった。

問7 本調査の参考資料として、国籍や在留資格別の参加人数などの詳細情報を、後日ご提供いただくことは可能ですか。

	回答数	%
①可	13	46.4
②不可	10	35.7
③その他(自由記述) ・個人情報以外ならば応相談 ・国籍のみ可 ・在留資格別の統計なし ・条件により可能	4	14.3
無回答	1	3.6
計	28	100.0

問8 貴教室の学習者の日本語レベルはどの程度ですか。各レベルの人数の割合を教えてください(おおよその数字で可)。

	各教室の割合の平均(%)
ほぼゼロ	10.4
初級レベル	56.6
中級レベル	26.2
上級レベル	6.8
計	100

問9 最近3年間(2017年度~2019年度)において、日本語学習に関すること以外で、学習者から相談を受けたことがありますか。(複数回答)

	回答数	%
①在留資格について(更新、変更など)	6	21.4
②仕事の紹介について(就職、転職など)	5	17.9
③職場でのトラブルについて(労働条件、他の従業員との関係、パワハラなど)	9	32.1
④健康面について(病院の紹介や病気の不安など)	8	28.6
⑤家族との関係について	3	10.7
⑥学校や進学について	11	39.3
⑦行政や学校からの通知文書について	13	46.4
⑧災害や防災について	4	14.3
⑨生活に関する情報について	14	50.0
⑩その他(自由記述) ・近隣住民との関係、年金、保険、住居問題	1	3.6
無回答	4	14.3

問10 学習者と日本語学習支援者(日本語ボランティア)の間でトラブルになったことや、問題となったことなどがありましたら、お聞かせください。また、その際どのように対処されましたか。(自由記述)

- 教室に来ることだけが楽しみている生徒に対し、まじめすぎる指導者が高いレベルを要求することがあった。
- 最近ほとんどない。過去にボランティアの力量不足で学習者から変えてほしいという要望があった。該当ボランティアには知らせず、担当を変えた。

- 電車のキセル乗車に当たる事例があった(意図的かどうかは不明)。担当ボランティアより、それが罪であること、正しい支払い方法等を説明はしたが、お互いに不信感のようなものが生まれた。
- なかったが、母国語を話すスタッフには 相談があったかもしれない。

多くの日本語教室が、学習者から幅広い内容の相談を受けており、中でも「生活に関する情報について」の相談が最も多かった。

### [学習方法や内容について]

問11 授業の形式を教えてください。あてはまるもの1つに✓をつけてください。

	回答数	%
①マンツーマンレッスン	6	21.4
②基本的にマンツーマンレッスンだが、参加人数によってグループレッスン	14	50.0
③基本的にグループレッスンだが、参加人数によってマンツーマンレッスン	4	14.3
④少人数のグループレッスン→1グループ( )人程度	0	0.0
⑤決められたクラスを1人の教師が教える、教室形式 →1クラス( )人程度(人数は自由記述)	5	17.9
・1クラス5-10人	(1)	
・1クラス6人	(1)	
・1クラス10人	(1)	
・記述なし	(2)	
⑥その他(自由記述) ・会話クラス(7~8人くらい)を別々の教室で行っている。 ・基本的にはマンツーマンレッスンだが、部屋(会場)によっては1対2。	2	7.1

問12 貴教室ではどのような教材を使用していますか。(複数回答)

	回答数	%
①教室として統一した使用テキストや教材がある	13	46.4
②教室として統一したテキストや教材はないが、主に使っている教材はある	13	46.4
③主に担当するスタッフ(ボランティア)が自分で選んで用意している	18	64.3
④主に学習者が持ってきたものを使っている	8	28.6
⑤その他(自由記述) ・会話クラスでは、スタッフが教材が用意している場合がある。 ・ボランティアの方と学習者が相談してテキストを決めている	2	7.1



問12-2 (①および②における)使用教材名を教えてください。(自由記述)

使用教材名	回答数
「みんなの日本語」シリーズ	22
日本語能力試験対応テキスト 過去問題集、模擬試験、「完全マスター」シリーズ等	9
「みえこさんのにほんご」シリーズ	4
「日本語総まとめ」	4
「にほんご45じかん」シリーズ	4
「日本語チャレンジ」	2
「できる日本語」シリーズ	2
「げんき」、「いっぽにほんごさんぽ」、「にほんごのきそ」、「はじめのいっぽ」、「まるごと日本語」、「にほんごおしゃべりのたね」、「にほんご読み書きのたね」、「漢字集中学習」(1~6年生)、「漢字でおはなし」(1~6年生)、「絵で導入・絵で練習」、「にほんご語彙力アップトレーニング」、「Mi Amigo Kanji」、「Meu Amigo Kanji」、漢字ドリル、初級用のサバイバル系テキスト、テキストに合わせた手作りプリント、「指さし会話帳」	各1

問13 貴教室での学習内容として、多いものを以下からそれぞれ3つまで選んでください。

(ア)「大人」対象の場合(複数回答)

	回答数	%
①日常会話	21	75.0
②日本語の文法	15	53.6
③日本語の読み書き(文字、文章、作文など)	17	60.7
④日本語能力試験対策 → ※学習レベル	18	64.3
⑤生活に必要な日本語(住所の手続き、病院、買い物で使う日本語など)	9	32.1
⑥敬語等のビジネスマナーや就職に必要な日本語	1	3.6
⑦仕事に必要な専門用語等の日本語	1	3.6
⑧日本の文化や制度	3	10.7
⑨日本人や他の学習者との交流	4	14.3
⑩その他	0	0.0

※④における学習レベル(複数回答)

レベル	N1	N2	N3	N4	N5
回答数	9	14	13	14	8

(イ)「子ども」対象の場合 ※学習支援教室は除く。(複数回答)

	回答数	%
①日常会話	3	10.7
②日本語の文法	0	0.0
③日本語の読み書き(文字、文章、作文など)	5	17.9
④日本語能力試験対策 → ※学習レベル	2	7.1
⑤学校生活に必要な日本語	2	7.1
⑥教科の勉強 → 主な教科(記述回答1:国語)	1	3.6
⑦学校の試験対策	0	0.0
⑧学校の宿題	2	7.1
⑨中校や高校の入試対策	1	3.6
⑩日本人や他の学習者との交流	0	0.0
⑪その他	0	0.0

※④における学習レベル(複数回答)

レベル	N1	N2	N3	N4	N5
回答数		2	2	1	

大人の教室では、学習内容として「日常会話」が最も多くなり、次いで「日本語能力試験対策」となった。日本語能力試験対策は、N1やN2など比較的高いレベルの指導も行なわれている。使用教材は「みんなの日本語」シリーズが圧倒的に多かった。「みんなの日本語」は1998年に出版されて以来、国内外で広く使用されており、基本的な文型をやさしいものから難しいものへと積み上げて学習していく、文型中心で構成された教材である。

問14 貴教室で通常の日本語学習以外に行っているイベント等がありましたら、教えてください。※昨年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の実績

イベントを行っている 教室数	※イベントの例(自由記述) 梅見、お花見、七夕、紅葉狩り、クリスマス会、忘年会、新年会、初詣、書初め、茶道、料理教室、持ち寄りパーティ、バーベキュー、バス旅行、近隣施設の見学、ハイキング、スポーツ(ボウリング・卓球)等
24	

問15 教室の運営において、ICT(インターネット等の通信技術を活用したコミュニケーション)を活用していますか。※アンケート回答時点での状況について回答

	回答数	%
①活用している	17	60.7
②活用したことはないが、今後活用したいと考えている	1	3.6
③活用していない/よくわからない	10	35.7
計	28	100.0

問15-2(「①活用している」と回答した教室において)活用しているもの(複数回答)

	回答数	%
Facebook	13	76.5
LINE	13	76.5
E-mail	8	47.1
Zoom	8	47.1
Skype	1	5.9

問15-3(「①活用している」と回答した教室において)オンライン/オンデマンドでの授業を実施していますか(したことがありますか)。

	回答数	%
している	8	47.1
していない	3	17.6
無回答	6	35.3
計	17	100.0

問15-4(「②活用したことはないが、今後活用したいと考えている」と回答した教室において)具体的に何を活用したいと考えていますか。

	回答数	%
LINE	1	100.0
Facebook、E-mail、Zoom、Skype	0	0.0
計	1	100.0

**[日本語学習支援者(日本語ボランティア)について]**

※活動団体により、報酬の有無や内容が異なるため、本調査では「日本語ボランティア」という名称は使用せず、日本語教室で日本語の学習支援をしている人を「日本語学習支援者」とした。

問16 教室で活動している日本語学習支援者の人数を教えてください。登録上的人数ではなく、2020年3月末現在において、実際に活動している人数を記入してください。

※回答数27、無回答1

	人数	割合(%)	平均人数(人)
日本語母語話者・無資格者	294	64.1	10.9
日本語母語話者・有資格者	41	8.9	1.5
日本語母語話者・資格等不明	116	25.3	4.3
日本語非母語話者・無資格者	6	1.3	0.2
日本語非母語話者・有資格者	0	0.0	0.0
日本語非母語話者・資格等不明	2	0.4	0.1
計	459	100.0	17.0

※「有資格者」とは、ここでは以下のいずれかを満たした方を指す。

- ・日本語教育能力検定試験合格者
- ・日本語教師養成講座 420 時間を修了した人
- ・大学または大学院で日本語教育を主専攻あるいは副専攻で修了した人

問17 日本語学習支援者の年代について、年代別におおよその人数を教えてください。

	人数	割合(%)	1 教室あたりの平均人数(人)
～20 歳代	24	4.8	0.9
30 歳代	45	9.0	1.6
40 歳代	56	11.2	2.0
50 歳代	90	18.0	3.2
60 歳代	166	33.1	5.9
70 歳代～	120	24.0	4.3
計	501	100.0	17.9

問 18 日本語学習を支援する以外の、専属スタッフがいましたら、教えてください。

(自由記述)

例 経理や受付のみを担当するスタッフ、学習者と支援者をマッチングするコーディネーターなど

● いない(7)
● 学習者と支援者をマッチングするコーディネーター
● 事務局(事務作業全般・学習者とサポーターのマッチング・・・他なんでもやる)
● 教室担当職員が教室業務全般を担う。
● 協会職員が対応。受付、学習者への連絡、修了証の準備等。
● 受付、会計、学習者名簿管理のみのスタッフがいる。
● 顧問 1 名
● 施設運営・経理全般・通訳手配・翻訳・相談対応・マッチングほかを 2 名が担当

問19 日本語学習支援者の募集方法を教えてください。(複数回答)

	回答数	%
①教室のウェブサイト	13	46.4
②Facebook, LINE, Twitter, Instagram などの SNS	10	35.7
③日本語学習支援者募集のチラシを配布掲載	9	32.1
④市町のウェブサイトや広報誌に	17	60.7
⑤地域のコミュニティセンターなどでのチラシ設置	6	21.4
⑥活動している支援者や教室のスタッフからの紹介	18	64.3
⑦その他(自由記述) ・日本語ボランティア研修、講座での案内 ・MIEF(三重県国際交流財団)、市のホームページ	2	7.1

問20 直近3年間(2017~2019年度)の日本語学習支援者の増減傾向について教えてください。

	回答数	%
①増えた	6	21.4
②少し増えた	5	17.9
③ほぼ横ばい	14	50.0
④少し減った	2	7.1
⑤減った	1	3.6
計	28	100.0

※ただし、「①増えた」のうち2回答は、「学習支援者」ではなく、「学習者」についての設問と間違えた回答の可能性がある。

問20-2 年代や性別など、増減傾向に特徴があれば教えてください。また、その理由として考えられることなどをお聞かせください。(自由記述)

【①または②について】

● 30代~40代、男女半々、世の中の景気いかんである。
● 昨年、市がボランティア養成講座を開催した。その修了者の参加があった。
● 定年退職が決まっている人が事前に申し込みをして、今後のライフプランを立てておられる。人生設計にボランティアを組み入れて考え、外国人が増えてきている社会情勢を受け止め、支援者になろうと思っていた。
● 教師を目指す大学生が自身の勉強にもプラスになると、ボランティアの精神を持って参加してくれている。
● まだ教室がスタートしたばかりなので、目立った増減はないが、夏休みには学生(中高生)も手伝ってくれた。親や知り合いがやっているので興味を持ってくれたようだ。また、外国人で上級者はボランティアとして参加することで、自分自身のスキルアップができると考えているようだ。
● 退職後の方(70代)が増加した。市主催の「日本語指導ボランティア養成講座」の参加者が増加した。
● 20代、30代、40代の女性スタッフが増えた。日本語ボランティア養成講座、やさしい日本語講座などの参加者が、スタッフとして参加してくれるようになった。
● 本年度の教室開設で、市の広報に掲載されたこともきっかけに、他市で支援をしていたが、地元で教室が開催されたのを知り、ぜひこちらで協力したいと申し出が増えた。

【③について】

● 若い世代が減り、60代が増えたように思う。
● 年齢、男女構成とも、適度にばらけている。
● 人数的には増えているようだが日本語指導できるスタッフ数は減少気味である。参加

される方の多くは熱心に活動されるが、家庭の事情（子供の習い事の送り迎え、家族の介護、転勤）などで短い期間に辞めていくケースが多い。若者の加入が少ない。定年以後の年代の方々が加入されるケースが増えてきた。
● ボランティアとして無給で活動してもらっているため、募集や継続が難しい。
● 有資格者が増えた。

【④または⑤について】

● （介護など）家庭の都合で時間が取れなくなった。
● 比較的男性の支援者が多くなっている。また支援者数も少なく平均年齢が上がってきている。若年層のボランティアの参加がない。

問21 貴教室では日本語学習支援者には、どのような能力や資質が大切だとお考えですか。  
(3つまで選択)

	回答数	%
①日本語教師の資格	6	21.4
②日本語を教えた経験の豊富さ	9	32.1
③日本語以外の語学力	0	0.0
④外国人や多文化共生についての知識	13	46.4
⑤社会経験や日本文化に関する知識の豊富さ	12	42.9
⑥活動に対する熱意	24	85.7
⑦他のスタッフと協力できる協調性	15	53.6
⑧パソコンやスマートフォンなど ICT を活用できること	1	3.6
⑨その他(自由記述) ・自ら日本語学習について勉強しようとする姿勢。 ・人が好きであること、コミュニケーション能力=笑顔、はっきりした言葉遣い、状況に応じた対応、空気を読む力など。	2	7.1

問22 日本語学習支援者のスキルアップのために何か行っていますか。(複数回答)

	回答数	%
①定期的にミーティングを行っている	14	50.0
②支援者向けの内部研修を行っている	8	28.6
③研修用の教材や活動についてのマニュアルがある	5	17.9
④活動に役立つ教材や指導書の紹介をしている	16	57.1
⑤行政や国際交流協会等が開催する研修の受講を勧めている	17	60.7
⑥新しい支援者や、経験が浅い支援者に対して個別に指導をしている	6	21.4
⑦その他(自由記述) ・授業後に反省会を持つ。 ・ボランティア同士で情報交換、情報共有。	3	10.7
⑧特に行っていない	4	14.3

以前から、学習支援者の高齢化に関わる課題はよく聞かれたが、本調査により学習支援者の半数以上が60代以上ということが明らかになった。募集方法については、市町の広報や口コミが多いが、行政主催のボランティア養成講座も日本語教室の周知や参加の良いきっかけとなっていることがうかがわれる。学習支援者に求めるのは、第一に「活動に対する熱意」や「協調性」としているが、一方、課題としては「日本語の指導力」が挙げられている。「活動が長続きしない」「定期的に活動できる人が少ない」「後継者がいない」は、地域の日本語教室に限らず、多くのボランティア活動に共通してみられる課題であると思われる。

問23 日本語学習支援者についての課題はありますか。(3つまで選択)

	回答数	%
①活動が長続きしない	9	32.1
②定期的に活動できる人が少ない	11	39.3
③日本語の指導能力	10	35.7
④教室の後継者がいない	10	35.7
⑤支援者同士の人間関係	1	3.6
⑥特に課題はない	6	21.4
⑦その他(自由記述) ・スキルアップしようとする意識がない。 ・学習者が少ない場合ボランティアが余ってしまい、手持無沙汰になる。その場合は帰ってもらうか、教材研究や情報交換にあてる。 ・新たな日本語学習支援者の確保。・高齢化	4	14.3

[教室運営について]

問24 教室運営についての課題はありますか。(自由記述)

● 支援者と学習者のバランス(マンツーマン)、資金、支援者の能力。週1回と言わず、2~3回でもチャンスあげたい(時間)。言葉が分からなく理解できない場合があり、一番困る。
● ボランティアの確保と、学習者の参加。現在はボランティアが確保できているが、いつも不安がある。また、学習者の参加人数が安定しないこと。ボランティアの養成。なかなか、教え方を指導する時間がとれない。そこで、教科書通り教えることを徹底することで、教え方による習得のばらつきができないようにしている。
● 定期的に活動できる日本語ボランティアの確保。
● ボランティアと学習者のマッチング。学習者の無断欠席、急な欠席連絡の対応。ボランティアの指導力
● 定期的に参加できるボランティアメンバーが少ない(一応当番制にして担当を決めているが、どうしても一部の人にかたよってしまう。学習者の参加確認が徹底せず、「参加」といったのに来ない、誰も参加しないと思っていたら当日来る、などがあつた。教室を借りているため、職員に鍵の開け閉めをしてもらわないといけないうことや、誰も参加しない日はお休みにしたいのだが、直前に連絡もなく来る人がいるので、参加確認を徹底させる方法を模索しているが、まだ解決していない。ボランティアメンバーが仕事の関係で、土日は都合が悪い人もいるが、学習者は平日は仕事で厳しいためどうしても土日になってしまう。ボランティアしたいのに参加できない(人数も足りなくなる)という。マッチングがうまくいかない月は回数を減らしている。
● 学習支援者の高齢化と後継者不足。
● 学習者の定着が不安定であること(帰国や就業によって退会する)。急に学習者が増えてボランティアが対応できない。人間同士なのでボランティアと学習者の相性ほか細かいところの問題が時々ある。その対応。
● 学習者が、長続きしない。学習支援者が潤沢にいるわけではないので、学習者の要望に応えられないときがある。
● 経験者の高齢化が問題であり、新たに日本語学習支援者(特に若い方)を確保する必要がある。
● 学習者の入れ替わりがあり、教室の学習者の人数が定まらない。毎回、学習者が変わることがあり、テキストにそつた授業が出来ないことがある(特に初級クラス)。
● 積極的に動いていただける人数が少ないこと。生徒の学習意欲が長続きしないこと。

- ①学習者の出欠について、不安定。前日に出席の確認を取ったにもかかわらず、学習者から直前にも欠席連絡がないとき、日本語学習者支援者だけが教室に来て、急遽帰っていたく時が何回かある。事前連絡が徹底しない。仕事の都合で来月の出席予定が立たない学習者も。学習支援者との調整が難しい。受講目的を明確に持っているかどうかで、意気込みの違いが出てくる。②日本語教室の持ち方：毎回座学だけではなく、現地（スーパーで買い物など）での体験も必要ではないか。日本語の学習だけでなく、教室終了後、学習者支援や施設のスタッフと学習者の歓談の場が必要ではないか（日常の困り感、やりたいこと、趣味など、互いの理解を深める時間が、外国人住民にとっては大事な時間になるのでは）。
- 無断欠席が多い。支援者へのお礼が払えたらよいと思う。
- 本教室は一斉授業形式を基本としている。経験のあるスタッフを中心に輪番制で授業を担当している。しかしスタッフも高齢化しつつある。教室を維持していくため、年齢の若いスタッフの参加を呼び掛けていくことや、スタッフの誰もが授業を担当する日本語教室をめざして、テキストの検討や必要な研修に取り組むことが大きな課題となっている。
- 問18の「経理や受付のみを担当するスタッフ、学習者と支援者をマッチングするコーディネーター」が欲しい。
- ①教室内が狭く、密集・密接が避けられない。②駐車場が狭く、日本語支援者乗り入れ分だけで満車になる。学習者の駐車場の確保ができない。③所在地が分かりにくく、番地をネット検索しても違う場所にポイントが落ちるので場所を説明するのが難しい。
- 学習者の方が増えて、勉強できる部屋が足りなくなってきた。また、新型コロナウイルスの影響もあって、タイムスケジュールを組んで学習を行っているため、そのたびに消毒を行うのが大変。スタッフの数が足りず、ボランティアの方々や学習者への対応がおろそかになってしまう。
- 入門や初級レベルのクラスは、コロナ禍であってもオンラインでの開催は難しいと考えている。なぜなら、接続や機器の操作等の支援ができない為、学習に至る前に一つハードルがある。コロナの感染が拡大により経済的に追い詰められやすいのは、日本語ができない方だ。そのような方にどのような支援ができるのか悩んでいる。

教室運営の課題として、多くの教室が、学習者および学習支援者の参加が流動的であること、そのために活動のプランを立てたり、マッチングしたりすることが難しいことを挙げた。また「コロナ禍」において、感染症対策に苦慮していることがうかがわれる。

**【日本語教育コーディネーターについて】**

問25 貴教室には専属の「日本語教育コーディネーター」、もしくはそのような役割を担っている方がいますか。

	回答数	%
①いる	12	42.9
②いない	16	57.1
計	28	100.0

問25-2（「①いる」と回答した教室において）業務の内容を教えてください。（複数回答）

	回答数	%
日本語教育プログラムの策定・実施、運営及び改善	3	25.0
日本語学習支援者に対する指導・助言	12	100.0
日本語学習支援者と学習者のマッチング	10	83.3
日本語学習支援者の養成や研修の企画・実施等	3	25.0
他団体との連携や協働を図る活動	5	41.7
その他	0	0.0

問25-3（「②いない」と回答した教室において）「日本語教育コーディネーター」は必要だと思われるですか。

	回答数	%
必要だ (理由)※自由記述 ・これからの在住外国人増加に対応するため。	2	12.5
必要でない (理由)※自由記述 ・学習支援者の連携、教室運営も順調なため。	2	12.5
どちらともいえない/わからない	9	56.3
無回答	3	18.8
計	16	100

問26 もし、「日本語教育コーディネーター」を貴教室で活用できるとしたら、どのような業務を依頼したいと思われるか。(自由記述)

● 支援者側の資質の向上。学習者の問題点、相談に乗り、解決できる限り努力してほしい。
● 日本語学習支援者に対する指導・助言。現在内部である程度行っているが、指導する人が少なくて、十分ではないのと、外部の違う視点からしてもらいハイレベルの指導、助言がもらえるとありがたい。ただ、日本語教育コーディネーターがどのようなものなのか具体的に分からないので、私たちの教室で活用できるかどうかは分からない。
● 日本語学習支援者に対する研修、指導、助言。日本語学習支援者と学習者のマッチング。
● 専門的立場から、地域における日本語教育の推進に関わってほしい。学習支援者に対する指導・助言。学習支援者と学習者のマッチング。学習支援者の養成や研修の企画・実施など。
● 日本語学習支援者の養成や研修の企画・実施等。日本語学習支援者が指導力を身に着けるためには、計画的に研修を進めていくことが必要だと思う。しかしボランティアスタッフは仕事を持ち、授業を引き受け、じっくり研修プランを考える余裕が少ない場合が多いので、この点でサポートが受けられるのは良いと思う。
● 日本語の指導をするときに、気を付けるポイント(文化の違いや言語など)や指導のノウハウを教えていただきたい。
● オンラインを用いた日本語教室運営について。学習支援者への指導。
● 学習者とサポーターのマッチング、学習記録の整理、初回のレベルチェック。
● 教室運営、授業についてのアドバイスがほしい。
● 教室運営・改善、日本語教師や日本語学習支援者に対する指導・助言、多様な機関との連携・協力および行政や地域の関係機関等との連携。
● 新しい学習者の面接およびレベルの判定。使用教室の確保など事務的手続き。
● 学習したい人はまだまだ地域にたくさんいると思うので、その人たちに情報がいきわたるようにするには?というあたり助言いただきたい。
● 教室から依頼する業務は特にない。地域全体で希望したいことは、別の設問に記載。
● コーディネーターの役割の一部は、施設の職員が行っているので、今のところ何とか足りていると感じている。もちろん、財源と人材が確保できれば、プログラムの策定など、改善に向けての活動、より多くの外国人住民へのサービス向上が期待できる。

市町、国際交流協会の回答と同様、「日本語教育コーディネーター」がどういうものかわからないため、要・不要について明確に回答できないと思われるが、もし活用できれば、特に学習支援者に対して助言や指導を行ってほしいという要望が多い。



**[三重県日本語教育推進計画(仮称)について]**

問27 外国人住民が働きやすく暮らしやすい環境づくりに向けて、①地域の日本語教室としてできること・支援したいと考えていること、②県への期待や要望、③他団体（行政機関、大学などの高等教育機関、NPO、日本語学校、企業等）への希望や提案など、自由にご意見をご記入ください。（自由記述）

①地域の日本語教室の役割
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本語を勉強するだけでなく、私たちの教室に来ることによって、日本人とふれあい、また、外国人同士の交流などを楽しんでもらいたい。そして、日頃、仕事でのストレスなども多いと思うが、ここにきて少しでも気持ちがほぐれ彼らの癒しの場になればいいなとも思う。</li> <li>● 私たちはボランティアグループで、日本人で興味があれば受け入れている。できることはやりたいと思う。</li> <li>● 私たちの日本語教室は、日本語習得支援を中心に活動している。言葉がわかること、字が読めることによって情報を得たり、日本人と理解しあえるようになり、安心、安全な生活ができるようになる。これは地域の日本人にとっても有益なことだ。日本の文化、生活習慣についても授業やイベントを通じて理解してもらおうようにしている。仕事関係や、法律知識のいる相談などは手に余ることなので、この会としては受けないことにしている。</li> <li>● 地域で暮らす仲間として、そこに住む人がゆるやかにつながることができるような取り組みを続けていこうと考えている。そのため、地域で日本語教室をやっていることを地域の人に知ってもらえるように、地域のイベントに日本語教室として積極的に参加しようと思っている。</li> <li>● 日本語学習支援だけでなく、就労、在留資格などをトータルでサポートする。気楽に相談できる「場」として活用してもらえそうな場づくり。</li> <li>● 私たちの教室が平日水曜日に開講している意義はあると考えている。現状ではこの時間帯での参加者、特にボランティアはほかの時間を提供できる状態にはない。日時が限られている中、日本語学習の支援という点に集中していて、その他多少は日常生活にかかわる問題の相談解決の手助けをすところまでが限度と言える。</li> <li>● 本教室は、地域にすむ外国人のニーズに応じて開催している。ニーズがあれば日本語能力試験対策等も検討する。</li> <li>● 地元小学校へ通う外国にルーツを持つ子どもたちの両親に向けて参加を呼び掛けるのはどうか。同じ国のコミュニティができているとの話も聞くので、そういう方にも来ていただきたい。</li> <li>● 市と共同した各種事業の開催。</li> <li>● 外国人住民の現状を把握し（困っていることなどを聞き取る等）、それを行政等に伝える。外国人住民への情報提供の場。日本人スタッフが外国人住民とかわるることにより、外国人住民へ理解者を増やす。それにより、外国人住民が頼れる人を増やす。</li> </ul>
②県への要望等
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国、県、市でもっときちんとした日本語を学べる場を作っていただきたい。昼間仕事の人多し。夜に勉強の場を。</li> <li>● 企業が率先して日本語習得の場を作るよう、指導してほしい。市民団体に無料で日本語指導を求めるのは、問題だと思う。</li> <li>● 行政の役割は、日本語教育の充実・支援体制（人材教育・場所の確保・財政支援）。</li> <li>● 財源の確保。自治体の主体的な推進施策。</li> <li>● 教材など、教育運営への助成金の充実。</li> <li>● ボランティアの交通費を出せればと考えているので、県から助成金が出れば嬉しい。</li> <li>● レッスン会場の確保を優先的に手短かに低価格（無料が理想）で。</li> <li>● 教室活動の中で三重県を紹介するとき使えそうな、多言語ややさしい日本語で記載された資料・パンフレットの作成。</li> <li>● 日本語教室における学習支援者の養成、各教室への経済的支援。</li> <li>● ボランティアスタッフを養成する講座などの開催。三重県各自治体で「やさしい日本語」の周知</li> </ul>

と多文化共生に関わる人及び自治体の職員対象に、「やさしい日本語の研修」の実施。

### ③他団体への希望や提案

- 技能実習生や技術・人文知識・国際業務の在留資格で来日している外国人が、日本語教室に自らの意思で学びに来られる方がいいのだが、会社側から地域の日本語教室に行くことを強制したり、組合が地域の日本語教室を勧めるのはどうかと思う。本来であれば、会社が日本語教室を設けて、さらに学習を行いたい外国人が地域の日本語教室に来るべきでは？
- 企業の役割・責任として外国人を受け入れる事前準備・環境整備（日本語学習のできる環境づくり・労働条件など）をすること。
- 日本経済のために使い捨てにされない外国人労働者の日本語学習支援は、そもそも国が責任を負うべきものである。「外国人住民が（働きやすく）暮らしやすい環境づくり…」この点を考えればボランティア教室の限界は日常生活に支障なく、地域住民と意思の疎通ができるような日本語力をつける生活者への支援となる。すなわち、主に企業実習生の学習支援はボランティア教室の活動範囲外と言える。現状はなんとかやりくりして実習生も受け入れているが、特に企業は実習生の語学学習には特化して場所と人材を準備すべきである。他の公共教育機関はそれぞれの責任で考慮すべきだと考える。実習生についての語学研修制度が新しくはなったが、企業が教育の場を持つためにはやはり公共的な力が働かなければ不可能だということは理解する。中小企業が合同で場所と講師（ボランティア料金でできる講師を探す）を準備すれば外国からの労働者の評価も上がる。若い人たちも夢を実現できると信用してもらえるようになればいい。彼らなしでは日本の経済は回らないのだから福利厚生としての教育を考えるべきだ。
- 教育機関：教材・教材器具の充実、プログラムの作成。
- 技能実習生をコーディネートしている会社（学習者は組合と呼んでいる）と密に連携を取っていきたいが、方法が分からないので、そこをつなぐシステムがあると大変有効だと思う。
- 学習者の日本語学習環境を少しでも良くすることが暮らしやすい環境づくりにつながると思う。教室会場そのものは使いやすくて良いが、立地的に交通の便が悪く、市内の周辺部に住む車を持たない学習者は、通うことが困難である。この点を市、企業と相談して改善策を探っていきたい。
- 外国人を雇用している地域の企業の方が日本語教室を利用する際の、協会活動への賛同についての働きかけ。
- 外国人を雇用する企業・団体に対し、日本語学習環境整備を促す。企業の所在地にある日本語教室への運営補助を促す。
- 企業へ：従業員の学習時間を保障する。現状は休日出勤、残業等で学習者が疲労している。

### ④その他

- 日本語を修得して、よりよい生活を送ってほしい。
- 小さなことでも相談できる場所、人材が必要。
- 助成金等の財政的支援。理由として、現在の教室会場が今後利用できなくなる予定のため、新たにアクセスのよい会場を利用する場合、会場費の増加が懸念されること、また、入管法の改正に伴う、学習者の増加が見込まれるため。

問28 他団体や企業等と連携した日本語教室の開催について関心がありますか。

	回答数	%
①関心がある	13	46.4
②関心がない	5	17.9
③わからない	8	28.6
④その他 (理由)※自由記述 ・支援者高齢(70歳以上)のため、先が分からない。	1	3.6
無回答	1	3.6
計	28	100.0

## [H]その他

問29 新型コロナウイルス感染症の拡大により、貴教室の活動において影響がありましたら、具体的に教えてください。(自由記述)

● コロナウイルス感染症の拡大により、状況を見て話し合いをしながら様子を見てきたが、今年度は活動を休止している。
● なし。今年4月ごろから、学習者が増えてきてあまり気にしなかった。
● 学習会場がコロナの影響で9月より閉鎖となる。今後も会場の状況で、教室の活動が制限されそう。しかし、あくまでも市民活動としての勉強会なので、基本、無理はしない。
● 感染状況を見ながら日本語教室を中止したり、再開したりしている。教室を再開するときは、消毒液、フェイスシールド、非接触型体温計などを購入し、予防対策のマニュアルを作成。全員が大きな声を出すコーラス練習や接近しての会話練習を行わないようにするなど授業内容を検討。
● 感染拡大により使用している施設が閉鎖になり、教室が使えなくなった。
● 4、5月、8、9月と活動を停止している。
● いつものように集まって授業ができなくなったので、3月は休止にした。しかし、4月よりオンラインに切り替えたことで、学習者とサポーターが途切れることなく関係を保っている。サポーターの皆さんが柔軟に対応してくださっているおかげで、オンライン授業が行えているので非常にありがたく思っている。
● 3月～5月：教室閉鎖、6月～再開。感染防止対策として、同一時間帯の受講人数を減らしている。
● 生徒が自国に戻ってそのままになっているようだ。
● 対面授業ができなくなった(学習者が3月から来なくなった)。そのため、急遽オンラインに切り替えて再スタートした(2020年4月から)。一時的のつもりだったが、長引いているため会費徴収ができない(コロナの影響もあるため無料サービスを行っている)。さらに、長引くようであればオンライン学習でも会費徴収を検討しなければ・・・。
● 3月に2020年度日本語教室を開講する予定であったが、中止になり、現在に至っている。9月に入り、三重県内の感染状況も落ち着いてきているので、9月中旬に会議を開き、10月より教室を再開することを決めた。
● 3密を避けることは非常に厳しい環境であること。当然自由参加であるので、すでに長期欠席の学習者、ボランティアが存在する。
● 今年度は、開催時期を遅らせて、秋に入門講座、年明けから初級講座を企画している。
● 3月から6月まで教室閉鎖。6月から8月まで(一部の授業はZoom)で再開したが、緊急警戒宣言が出たため、ミーティングの結果、今年いっぱい休講と決定。休講とした主な理由はボランティア側のコロナ対策強化だけでは不安という意見が多く、安心して授業ができない。コロナの影響で派遣切りにあった人などが今の時間を使って日本語の勉強を希望している。その気持ちに添えなくて申し訳ない。
● 2020年3月10日から5月末まで教室をお休みした。6月から再開したが、ボランティアも一部参加を見合わせ、学習者も減少している。
● 新入生は少なくなった。
● 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う施設休館のため、日本語教室を休止することなどがあった。また学習者においても雇用先の企業等から、外出自粛等の指示があるなど参加者が減少した。また再開にあたり、マスク・消毒液等の臨時経費が必要となった。
● 学習者及び支援者の参加が減少した。再開にあたり、マスク・消毒液・検温器具等の臨時経費が必要となった。
● 3月～5月、9月～10月の間休講。再開にあたり、マスク・消毒液等の臨時経費が必要となった。
● 学習者間の距離を保つために、1教室の人数が少なくなること。

- 2020年3月より日本語教室の活動を休止している。参加者にはALTが多く、今年度帰国する方も多いうえに、新たに後任者がくる見込が現在ないため、参加人数が少なくコロナがおさまっても、しばらくは再開できるのかが未定。
- 2月末～6月中旬、8月中、9月末（1週間）に休室というように、休室、再開を繰り返しており、継続的な教室運営ができていない状態である。新型コロナウイルス感染症対策を講じるために、指導以外のことで時間がかかり、学習支援者への負担が増加した。コロナに対する不安があり、学習者が参加を控えているため、例年より参加する学習者が減少している（支援者も高齢や仕事柄のため、同様に参加を控えている）。
- 感染リスクを考え、3月～5月末までと、8月末～9月12日まで休講した。9月16日から再開。休講中は、Zoomを使ったオンライン授業を開催。
- 2か月間会場が使用できなく、リモートにするにも生徒側にその環境が整っていないので、大多数の生徒が休みになり、かなりレベルが低下した。
- 今年度4月開講の予定が、コロナ禍により、6月からの開講になった。周知活動が十分にできない現状がまだ続いている。

問 30 本調査についてご意見・ご質問等ありましたらご記入ください。（自由記述）

- 学習者の人数が、正確には分からない。参加した人には、ノートに名前を書いてもらっているが、書かない人も毎回いるので。
- 自分の教室のことを改めて考え、見直すきっかけになった。教室について、いつでも答えることができるように名簿等の管理をしっかりしようと思った。
- ここまで詳細に記述する機会はなかったので思いがけずかなり時間がかかった。少しでもお役に立てればと思う。
- 開講した際に受講生・企業側からの欠席連絡がないということがあった。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、企業側から受講生に対し出席の必要はないという連絡があったようであるが、日本語教室への連絡はなかった。日本語教室主催者（協会・事務局）からの運営に関する連絡もない。我々ボランティアはどのように運営していくのがよいのか、どこに頼ればよいのか。行政として、もう少しなんとかしてほしいとも思う。

## D. 日本語教育機関（日本語学校）

【学校の概要について】

○対象者

	回答数	%
留学生	4	100
定・永住者	2	50
短期滞在者	1	25
その他（自由記述） ・家族滞在	1	25

○貴校の設立目的や日本語教育の理念・方針等を教えてください。また、貴校の特色や強みなどあれば、ご記入ください。（自由記述）

- 地域の外国人から日本語を学べる学校を作ってほしいとの声があり、最初は日本語教室をボランティアで始め、その後外国から日本語を学びに来たい若者がたくさんいると耳にし、日本語学校を設立致した。本校では、日本語教育を通して日本の文化や習慣を知り、日

本人と外国人が互いに理解し合い共存していくための多文化共生を学び、日本で生きていくための基礎を築いてもらいたいと考えている。当校は学生の夢や希望を叶えるための丁寧できめ細かな手助けが出来る学校である。学生寮も完備しており、来日したその日から安全に生活していただける。

- 実践的な日本語力を身に付け、日本文化や言語の違いを理解し社会に適応できる人材を育成する。
- 本校理事長が、ネパールとの交流を通じて、才能あふれる若者が日本への留学を夢見ている姿を目の当たりにし、ネパール等海外から日本への留学を志す多くの若者を受け入れたいと本校の設置を決意した。立地条件の良さを生かしながら、利益重視のビジネス型学校経営ではなく、留学生に快適な学びの場と環境を提供し、日本の文化・習慣等を学べるセミナーを実施するなどして、留学生が安心して日本で生活出来るような、充実したサポート体制を有する学校運営を心掛けてゆきたいと考えている。語学教育を通じて、広く国際社会に貢献し、将来に役立つ、主体性に溢れる外国人人材を育成することを目標としている。
- 日本国内の少子高齢化、諸外国との人材交流の必要性を鑑み、日本との懸け橋となる人材を育成することを目標として、本校は設立された。学校グループ内の多岐にわたる専門分野の専門家からのサポートを有効に活用して留学生教育を進めている。

### [学生について]

問1 最近3年間(2017年度~2019年度)の学生の増減傾向について教えてください。

	回答数	%
①増えた	1	25.0
②少し増えた	1	25.0
③ほぼ横ばい	1	25.0
④少し減った	0	0.0
⑤減った	0	0.0
⑥無回答	1	25.0
計	4	100.0

問1-2 国籍や年代などについて、増減傾向に特徴があれば教えてください。また、その理由として考えられることなどをお聞かせください。(自由記述)

- ネパールの学生が増加傾向にある。それは当校と提携している学校がネパールにあることと、校内にネパール人のスタッフがいるということが考えられる。今はベトナム人スタッフも入社し、いろんな国の学生の学びの場になるように取り組んでいる。
- 3年間では“増えた”傾向になる。国籍はネパールが全体の86%、インドネシア・ベトナムが合わせて14%ほどになる。年代は10代後半から20代前半が殆どである。
- 開校が最近のため、増減傾向についての回答はできない。

問2 昨年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の貴校の延べ在籍学習者数を、  
国籍・在留資格別に教えてください。お差支えのない範囲でお答えください。

	ネパール	ベトナム	中国	スリランカ	ペルー	インドネシア	フィリピン	バングラデシュ	ブラジル	ミャンマー	インド	韓国	タイ	イラン	計(人)
留学	271	61	9	16	0	8	4	6	0	3	2	1	0	1	382
短期滞在	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
身分に基づく 在留資格	0	2	4	0	8	1	2	0	4	0	0	0	1	0	22
家族滞在	0	3	6	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	12
計(人)	271	66	19	16	10	9	6	6	5	3	2	1	1	1	416

※身分に基づく在留資格とは「永住者・定住者・日本人の配偶者等」

問3 学生の日本語学習の目的・目標は主に何ですか。(主なもの3つまで選択)

	回答数	%
①日本語能力試験に合格するため	2	50.0
②日本で就職するため	2	50.0
③母国で就職するため	0	0.0
④専門学校や大学などに進学するため	4	100.0
⑤資格取得のため	1	25.0
⑥日本で生活するため	2	50.0
⑦仕事のため	0	0.0
⑧その他	0	0.0

問4 貴校では日本語能力試験対策をしていますか。

	回答数	%
①している	4	100
②していない	0	0

問4-2 (「①している」と回答した教室において)2019年度における、  
日本語能力試験の実績を教えてください。

レベル	N1	N2	N3	N4	N5	合計
受験者数	7	50	161	75	0	293
合格者数	0	14	46	11	0	71

問5 昨年度の卒業生の進路について、人数と主な行き先を教えてください。

	県内の大学・専門学校等に進学・編入	他県の大学・専門学校等に進学・編入	県内の企業等に就職・転職	他県の企業等に就職・転職	帰国	その他	不明	計
人数	62	35	4	0	8	3	0	112

問6 アルバイトをしている学生はどのくらいいますか。

	回答数	%
①80%以上	4	100.0
②60~80%未満	0	0.0
③40~60%未満	0	0.0
④20~40%未満	0	0.0
⑤20%未満	0	0.0
⑥把握していない	0	0.0
計	4	100.0

問7 学生の主なアルバイト先を教えてください。(上位3つまで選択)

	回答数	%
①製造業	3	75.0
②情報通信業	0	0.0
③運輸業、郵便業	1	25.0
④卸売業、小売業	2	50.0
⑤宿泊業、飲食サービス業	3	75.0
⑥教育、学習支援業	0	0.0
⑦医療、福祉	0	0.0
⑧サービス業	0	0.0
⑨その他(自由記述) ・倉庫内作業、他	1	25.0
⑩把握していない	0	0.0

**[教育内容について]**

問8 教室の形式を教えてください。(複数回答)

	回答数	%
①マンツーマンレッスン	1	25.0
②少人数のグループレッスン	2	50.0
③教室形式	4	100.0
④通信教育	0	0.0
⑤その他	0	0.0

問9 教育内容で、特に重視していることは何ですか。(3つまで選択)

	回答数	%
①日常会話	1	25.0
②日本語の文法	1	25.0
③日本語の読み書き	2	50.0
④日本語能力試験対策	3	75.0
⑤大学等の高等教育機関の対策試験	2	50.0
⑥生活に必要な日本語	1	25.0
⑦敬語等のビジネスマナーや就職に必要な日本語	1	25.0
⑧資格取得の対策	0	0.0
⑨日本の文化や制度	1	25.0
⑩日本人や他の学生との交流	0	0.0

①その他	0	0.0
------	---	-----

問10 授業の運営において、ICTを活用していますか。

※アンケート回答時点での状況について回答

	回答数	%
①活用している	3	75.0
②活用したことはないが、今後活用したいと考えている	1	25.0
③活用していない	0	0.0
計	4	100.0

問10-2 (「①活用している」と回答した学校において)活用しているもの(複数回答)

	回答数	%
Facebook	3	100.0
LINE	3	100.0
E-mail	1	33.3
zoom	1	33.3
Skype	2	66.7
その他	0	0.0

問10-3 (「①活用している」と回答した学校において)オンライン/オンデマンドでの授業を実施していますか(したことがありますか)。

	回答数	%
している(したことがある)	1	25.0
していない(したことがない)	3	75.0

問10-4 (「②活用したことはないが、今後活用したいと考えている」と回答した学校において)具体的に何を活用したいと考えていますか。(複数回答)

	回答数	%
Facebook	1	33.3
LINE	1	33.3
E-mail	1	33.3
zoom	1	33.3
Skype	0	0.0
その他	0	0.0

問11 貴校において、日本語教育以外で学生への支援業務として行っていることはありますか。(複数回答)

	回答数	%
①生活情報の提供	3	75.0
②通訳や翻訳の支援	3	75.0
③アルバイトの紹介	2	50.0
④就職相談	1	25.0
⑤進学相談	4	100.0
⑥住居の手配	3	75.0
⑦役所や病院等への同行	3	75.0
⑧同居家族に関する相談対応	1	25.0
⑨出入国在留管理局での手続き代行または同行	4	100.0
⑩各種試験の手続きまたは同行	4	100.0
⑪日本の文化や制度に関するセミナー等の開催	2	50.0
⑫その他	1	25.0
⑬特に支援は行っていない	0	0.0



[日本語教師について]

問12 2020年3月31日現在での日本語教師の人数を教えてください。

	無資格者	有資格者	資格等不明
日本語母語話者	0	47	0
日本語非母語話者	0	1	0
計	0	48	0

問13 日本語教師にはどのような能力や資質が大切だとお考えですか。(3つまで選択)

	回答数	%
①日本語教師の資格	4	100.0
②日本語を教えた経験の豊富さ	2	50.0
③日本語以外の語学力	0	0.0
④外国人や多文化共生についての知識	1	25.0
⑤社会経験や日本文化に関する知識の豊富さ	0	0.0
⑥教育に対する熱意	2	50.0
⑦他のスタッフと協力できる協調性	2	50.0
⑧パソコンやスマートフォンなど ICT を活用できること	1	25.0
⑨その他	0	0.0

問14 日本語教師のスキルアップのために何か行っていますか。(複数回答)

	回答数	%
①定期的にミーティングを行っている	4	100.0
②スタッフ向けの内部研修を行っている	2	50.0
③オリジナル教材や日本語指導についてのマニュアルがある	1	25.0
④外部の研修や学会への参加を奨励している	1	25.0
⑤新しいスタッフや、経験が浅いスタッフに対して個別に指導をしている	4	100.0
⑥その他	0	0.0
⑦特に行っていない	0	0.0

[地域の日本語教育との関わりについて]

問15 学生に地域の日本語教室について情報提供をしていますか。

	回答数	%
①している	0	0.0
②していない	4	100.0

問16 教師や在学生または卒業生で、地域の日本語教室で教えている人はいますか。

	回答数	%
①いる	2	50.0
②いない	0	0.0
③わからない/把握してない	2	50.0

問17 現在、地域の他団体(行政機関、国際交流協会、NPO、大学などの高等教育機関、地域の日本語教室、外国人雇用企業等)と連携や協力をしていますか。

	回答数	%
①している	3	75.0
②していない	1	25.0

問17-2(「①している」と回答した学校において)具体的な内容について教えてください。  
(複数回答)

	回答数	%
事業の企画・運営	0	0.0
講師や有識者委員の派遣や紹介	0	0.0
教材やカリキュラムの作成	1	25.0
日本語学習支援者(日本語ボランティア)等の養成	1	25.0
学生に対する、地域の活動やイベント等への参加促進	2	50.0
通訳や翻訳の支援	2	50.0
その他	0	0.0

### [三重県日本語教育推進計画(仮称)について]

問18 外国人住民が働きやすく暮らしやすい環境づくりに向けて、①日本語教育機関としてできること・支援したいと考えていること、②県への期待や要望、③他団体(行政機関、国際交流協会、NPO、大学等の高等教育機関、地域の日本語教室、企業等)への希望や提案など、自由にご意見をご記入ください。(自由記述)

- 生活者へ日本語支援(学校の開放など)、就職希望者への日本語支援、地域、行政、大学などの協力体制の機構。
- ①初級・初中級レベルの日本語教育。必要であれば進路指導。②アンケートで状況を把握され、検討された結果を可能な限り開示されること、そして結果を今後どう活かすおつもりなのかもご紹介していただくことを希望している。

問19 他団体や企業等と連携した日本語教室の開催について関心がありますか。

	回答数	%
①関心がある	4	100.0
②関心がない	0	0.0
③わからない	0	0.0
④その他	0	0.0

### [その他]

問20 新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業に影響がありましたら具体的に教えてください。(自由記述)

- 校内での感染を防ぐため、休校期間を設けた。休校期間中の勉強は、宿題を出し提出させることで補った。
- 4月入学、10月入学予定の学生が入国できていない。海外への募集活動ができていない。
- 既に在留資格認定証明書が交付された2020年4月生及び2020年10月生の入国の目的が立たず、さらに2021年以降についても学生が入国できない場合は事業継続が困難になる可能性がある。
- 入学試験に合格して在留資格認定証が交付された留学生在が入学できなかった。
- 授業でオンラインを部分的に導入。
- 検温、消毒等日常的に作業が多くなった。

問21 貴校の学生にインタビューのご協力をお願いすることは可能ですか。

回答	回答数	%
①可	2	50.0
②不可	2	50.0
③その他	0	0.0
計	4	100.0

問22 本調査についてご意見・ご質問等ありましたらご記入ください。

※回答なし。

日本語教育機関の教師は全員有資格者であり、主に教室形式による、日本語能力試験対策、進学、就職を目的とした授業が行われている。企業や他団体との連携について関心もあるので、協力して地域の日本語教育に取り組むことで、より外国人住民の目的に合った教育プログラムの策定や実施ができる可能性がある。新型コロナウイルス感染症の拡大により大きな影響を受けていることが懸念される。

## E. 高等教育機関

### [留学生について]

問1 最近3年間(2017年度～2019年度)の留学生の増減傾向について教えてください。

	回答数	%
①増えた	2	22.2
②少し増えた	2	22.2
③ほぼ横ばい	5	55.6
④少し減った	0	0.0
⑤減った	0	0.0
計	9	100.0

問1-2 国籍や年代などについて、増減の傾向の特徴があれば教えてください。また、その理由として考えられることなどお聞かせください。(自由記述)

- 国籍について、中国籍が約50%減少し、ベトナム、ネパール国籍が120%に増加した。その理由として考えられるのは、ベトナムやネパールからの渡日者の増加である。本学は日本語学校や専門学校からの入学者のみ受け入れ、直接入試を行っていないのだが、それらの教育機関から、その2か国の学生を推薦していただく割合が高くなった。
- ラオス…1名、モンゴル…2名(昨年度 マレーシア…1名、モンゴル…1名、ラオス…1名)
- ネパールの増加
- 国籍についてはネパールの増加が著しい。理由としては2点考えられる。まず、県内日本語学校の受験者が多いことから、県内日本語学校の在籍者の国籍比率の影響が大きい。次に、「介護」の在留資格取得をした卒業生がおり、そうした情報がネパール人のネットワークを通じて広がっているようである。

問2 2019年度における、貴校の留学生の日本語能力試験の実績について把握していますか。

	回答数	%
①把握している	3	33.3
②把握していない	6	66.7
計	9	100.0

問2-2（「①把握している」と回答した学校において）詳細を教えてください。

レベル	N1	N2	N3	N4	N5	合計
受験者数	7	23	10	0	0	40
合格者数	0	5	3	0	0	8

問3 アルバイトをしている留学生はどのくらいいますか。

	回答数	%
①80%以上	4	44.4
②60～80%未満	0	0.0
③40～60%未満	0	0.0
④20～40%未満	0	0.0
⑤20%未満	3	33.3
⑥把握していない	2	22.2
計	9	100.0

問4 留学生の主なアルバイト先を、上位3つまで教えてください。（複数回答）

	回答数	%
①製造業	2	28.6
②情報通信業	0	0.0
③運輸業、郵便業	1	14.3
④卸売業、小売業	4	57.1
⑤宿泊業、飲食サービス業	5	71.4
⑥教育、学習支援業	0	0.0
⑦医療、福祉	1	14.3
⑧サービス業	0	0.0
⑨その他（自由記述） ・アルバイトをしていない	1	14.3
⑩把握していない	2	28.6

### [日本語教育について]

問5 留学生を対象とした日本語教育を行っていますか。

	回答数	%
①行っている	8	88.9
②行っていない	1	11.1
計	9	100.0

問6（問5で「行っている」と回答した学校において）日本語教育の目的は何ですか。  
（複数回答）

	回答数	%
①学校の授業や講義を理解するため	8	100.0
②進学（予備教育）のため	3	37.5
③就職のため	2	25.0
④日本語能力試験対策のため	6	75.0
⑤専門分野に関する資格試験対策のため	2	25.0
⑥日本での生活に困らないようにするため	4	50.0
⑦日本の文化や制度を理解するため	5	62.5
⑧その他	0	0.0

[留学生支援について]

問7 留学生に対する支援業務としてどのようなことを行っていますか。(複数回答)

	回答数	%
①生活情報の提供	6	66.7
②通訳や翻訳の支援	2	22.2
③アルバイトの紹介	2	22.2
④就職相談	7	77.8
⑤進学相談	6	66.7
⑥住居の手配	7	77.8
⑦役所や病院などへの同行	6	66.7
⑧同居家族に関する相談対応	1	11.1
⑨出入国在留管理局での手続き代行または同行	6	66.7
⑩各種試験の手続き代行または同行	1	11.1
⑪日本の文化や制度に関するセミナー等の開催	5	55.6
⑫その他(・チューター制度)	3	33.3
⑬特に支援は行っていない	1	11.1

問8 留学生を対象とした授業の運営において、ICTを活用していますか。

※アンケート回答時点での状況について回答

	回答数	%
①活用している	8	88.9
②活用したことはないが、今後活用したいと考えている	0	0.0
③活用していない / よくわからない	1	11.1
計	9	100.0

問8-2(「①活用している」と回答した学校において)活用しているもの(複数回答)

	回答数	%
Facebook	1	12.5
LINE	1	12.5
E-mail	5	62.5
zoom	2	25.0
Skype	1	12.5
その他(自由記述) ・manaba(2) ・Microsoft Teams(2) ・meet,classroom(2)	6	75.0

問8-3(「①活用している」と回答した学校において)オンライン/オンデマンドでの授業を実施していますか(したことがありますか)。

	回答数	%
している(したことがある)	7	87.5
していない(したことがない)	0	0
無回答	1	12.5
計	8	100.0

[地域の日本語教育との関わりについて]

問9 留学生に地域の日本語教室について情報提供をしていますか。

	回答数	%
①している	1	11.1
②していない	8	88.9
計	9	100.0

問10 貴校の教師や在学生または卒業生で、地域の日本語教室で教えている人はいますか。

	回答数	%
①いる	1	0.0
②いない	1	11.1
③わからない/把握していない	7	77.8
計	9	100.0

問11 地域の日本語教育に関して、他団体（行政機関、国際交流協会、NPO、日本語学校、地域の日本語教室、外国人雇用企業等）と連携や協力をしていますか。

	回答数	%
①している	3	33.3
②していない	6	66.7
計	9	100.0

問11-2（「①している」と回答した学校において）具体的な内容について教えてください。

（複数回答）

	回答数	%
ア. 事業の企画・運営	1	33.3
イ. 講師や有識者委員の派遣や紹介	2	66.7
ウ. 教材やカリキュラムの作成	1	33.3
エ. 日本語学習支援者（日本語ボランティア）等の養成	0	0.0
オ. 学生に対する、地域の活動やイベント等への参加促進	2	66.7
カ. 通訳や翻訳の支援	1	33.3

[三重県地域日本語教育推進計画（仮称）について]

問12 県内の外国人住民の日本語習得を支援するため、今年度、「三重県日本語教育推進計画（仮称）」を策定する予定です。外国人住民が働きやすく暮らしやすい環境づくりに向けて、①高等教育機関としてできること・支援したいと考えていること、②県への期待や要望、③他団体（行政機関、国際交流協会、NPO、地域の日本語教室、日本語学校、企業等）への希望や提案など、自由にご意見をご記入ください。（自由記述）

- 地域の国際化の推進も使命の一つであるので、関係諸機関や他団体と協力しながら、所属学生のみならず広く地域に居住する外国人住民の日本語習得の支援は行いたい。またその際には、大学教職員だけでなく留学生も含めた学生の参加も教育的見地から積極的な呼びかけを行いたい。
- ①から③全般に関する提案とお願い。これまで本学留学生は、さまざまな形で地域社会と

の連携を深める事業に主にボランティアの形で参画してきた。ところが、今般のコロナ禍の中で、そうした活動に積極的に取り組んできた留学生の多くが経済的困難に陥る事態となっている。つきましては、(1)そうした学生が地域との連帯感が感じられ、さらに今後ともそれが深められるような経済面でのご支援、(2)様々な形での地域との連携活動への参画をボランティアに留めるのではなく収入に繋がるような形の導入、さらに(3)そうした地域での活動が就職の際に高く評価されるような仕組みの導入、以上3点を提案しお願い申し上げます。

- ①高等教育機関として十分な日本語能力はつけて卒業、就職させること、日本語能力が未熟な留学生に対する日本語の訓練。②在留資格に関わらず、日本語を母語としない住民が継続して日本語教育を受けられる場を設けてもらいたい。
- ①本校にも留学生がおり、他校との学生間交流や地域交流など貢献したい。②各校で単独でやっている行事が主流で、予算などで他校との交流は難しい面がある。そうした橋渡しを行って頂ければ、交流が促進されるのでは。

問13 他団体や企業等と連携した日本語教室の開催について関心がありますか。

	回答数	%
①関心がある	4	44.4
②関心がない	0	0.0
③わからない	2	22.2
④その他(自由記述) ・就職につながる企業との連携を模索中である。 ・情報があれば提供してほしい。	3	33.3
計	9	100.0

### [その他]

問14 新型コロナウイルス感染症拡大により、留学生が関わる事業や状況等において影響がありましたら、具体的に教えてください。(自由記述)

- 多大な影響を被っている。感染拡大阻止の観点から活動が様々な面で大きく制限を受けているほか、国際的な移動制限の状況の中、新たに渡日する留学生が大幅に減っている。次年度は現地での講義の受講や指導教員の指導を受けることを可能とするような、いわばオンラインでの留学の実施も考えているが、実効のほどは定かでなくすべてが試行錯誤と手探りの状態である。
- 渡日できない学生がおり、オンラインで対応している。
- 多くの国際交流事業が中止となり、地域との交流を持つ機会が極端に減った。経済的困窮に陥る者もあり、学業の継続が危ぶまれる者もいる。
- コロナ禍に伴う経済状況の変化の中で、留学生が置かれた状況は厳しいものとなり、本来の目的である学業そのものが難しくなっている留学生も多く、学業以外の活動になかなか目が向きにくくなっていると感じる。その一方で、近隣から支援を受けているとの留学生からの声もしばしば耳にしている。については、(1)学業以外の活動へも安心して参加できるような経済的な支援、(2)誤解を取り除き理解を深められるような地域社会との交流の機会の創設、以上2点をお願いしたい。
- アルバイトの減少による収入の減。未入国留学生に対する国内アパートの家賃負担が大きい。リモート授業に対するICT通信料負担。
- 例年8月に行っているバス見学ツアーなどの実施が中止となった。
- 多人数が集まる交流会を中止した。

問15 留学生に、日本語学習に関するアンケートまたはインタビューを依頼可能ですか。

回答	回答数	%
①可	4	44.4
②不可	3	33.3
③その他(自由記述) ・留学生への案内は協力できるが、それ以上(アンケートの集計、インタビューの日程調整等)の協力は難しい。	1	11.1
無回答	1	11.1
計	9	100.0

問16 本調査についてご意見・ご質問等ございましたらご記入ください。

- 本学は留学生の数が少ない状況である。また、在籍している留学生は授業を受けるのに支障がない日本語が出来る学生である。

現時点で、他団体と連携・協力を行っている機関は多くはないが、問13に見られるように連携した日本語教室の開催については関心が高く、それ以外の面でも地域と連携や交流をしたいと考えていることが、自由記述回答からうかがわれる。日本語教育機関同様、日本語能力試験対策や、留学生に対する生活支援などの面で知識や経験があり、オンライン/オンデマンド授業の実績もあるため、地域の日本語教育についても様々な助言をいただくことが可能ではないかと思われる。

## F. 企業

[事業所の概要について]

○本社・支社等の別

回答	回答数
本社・本所	54
支社・支所・支店	4
その他	7
無回答	3
計	68

○業種

	回答数	%
①建設業	5	7.4
②製造業	31	45.6
③運輸業・郵便業	1	1.5
④卸売業・小売業	7	10.3
⑤宿泊業・飲食サービス業	5	7.4
⑥教育・学習支援業	0	0.0
⑦医療・福祉	3	4.4
⑧サービス業(他に分類されないもの)	9	13.2
⑨その他(自由記述) ・不動産賃貸、人材派遣、リサイクル、漁業、生活関連サービス	6	8.8
無回答	1	1.5
計	68	100.0



**[外国人従業員の雇用状況、雇用予定について]**

問1 貴事業所に外国人従業員はいますか。

	回答数	%
①いる	62	91.2
②いない	6	8.8
計	68	100

問2 今後の外国人の雇用予定についてどのようにお考えですか。

	回答数	%
①雇用する予定がある／雇用を検討したい	47	69.1
②雇用する予定はない	5	7.4
③未定／わからない	16	23.5
計	68	100.0

**★以降は問1において、「①外国人従業員がいる」と回答した62事業所への設問**

問3 外国人従業員の職種を教えてください。(複数回答)

	回答数	%
①管理職	2	3.2
②専門・技術職	21	33.9
③翻訳・通訳	7	11.3
④営業	1	1.6
⑤接客・サービス	4	6.5
⑥一般事務	1	1.6
⑦技能	30	48.4
⑧その他(※)	15	24.2

※「⑧その他」の自由記述回答

調理員	介護職員	インバウンド企画、立案、誘致	調理員
運転手	製造作業	水産加工食品製造	工場作業(鉄骨)
作業員	梱包作業	技能実習生	製造

問4 外国人従業員の在留資格を教えてください。(複数回答)

	回答数	%
①身分に基づく在留資格	25	36.8
②技能	1	1.5
③特定活動	7	10.3
④技能実習	39	57.4
⑤企業内転勤	2	2.9
⑥技術・人文知識・国際業務	14	20.6
⑦資格外活動	1	1.5
⑧その他(自由記述) ・介護、経営管理	3	4.4

問5 外国人従業員の雇用形態および国籍別の人数を教えてください。

	ブラジル	ベトナム	中国	フィリピン	韓国	ペルー
期間の定めのない従業員	92	34	25	25	5	7
有期従業員(パート・アルバイト等)	134	6	9	5	4	6
派遣労働者・請負労働者	183	23	53	12	0	9
技能実習	4	142	110	15	0	0
その他	0	0	1	0	0	0
<b>計</b>	<b>413</b>	<b>205</b>	<b>198</b>	<b>57</b>	<b>9</b>	<b>22</b>

	インドネシア	タイ	ネパール	台湾	ポリビア	バングラデシュ
期間の定めのない従業員	5	9	4	7	5	2
有期従業員(パート・アルバイト等)	3	0	6	0	0	0
派遣労働者・請負労働者	7	0	1	0	0	0
技能実習	55	45	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
<b>計</b>	<b>70</b>	<b>54</b>	<b>11</b>	<b>7</b>	<b>5</b>	<b>2</b>

	フランス	アメリカ	パキスタン	イタリア	パラグアイ	ロシア	計
期間の定めのない従業員	1	1	1	1	1	1	226
有期従業員(パート・アルバイト等)	0	0	0	0	0	0	173
派遣労働者・請負労働者	0	0	0	0	0	0	288
技能実習	0	0	0	0	0	0	371
その他	0	0	0	0	0	0	1
<b>計</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1,059</b>

問6 外国人従業員の勤続年数別人数を教えてください。

	人数	割合(%)
①1年未満	208	19.6
②1年以上3年未満	510	48.1
③3年以上	342	32.3
計	1,060	100.0
④把握していない	(1社)	

**[外国人従業員の日本語能力について]**

問7 外国人従業員の採用時に、どのような日本語能力をチェックしていますか。(複数回答)

	回答数	%
①挨拶等の基本的な日本語能力	38	61.3
②日本人とコミュニケーションをとるための日常会話力	44	71.0
③仕事に必要な専門用語等の日本語力	18	29.0
④敬語等のビジネスマナーに関する日本語力	5	8.1
⑤日本語能力試験の認定レベル	21	33.9
⑥日本語能力は問わない	4	6.5
⑦その他(自由記述) ・自社の読み書きテスト ・文字(ひらがな・カタカナ)や漢字の読み書き ・送り出し機関の推薦・情報 ・車の運転、お客様とコミュニケーションを取るための日本語力	4	6.5

問7-2(⑤を選択した事業所において) 求める認定レベル

レベル	N1	N2	N3	N4	N5	計
回答数	6	7	5	4	2	24
%	25.0	29.2	20.8	16.7	8.3	100.0

職種によって求める日本語能力が違うという回答もあったが、「①挨拶等の基本的な日本語能力」および「②日本人とコミュニケーションをとるための日常会話力」を重視している事業所が多いことが明らかになった。また「⑤日本語能力試験」を参考にしている事業所も3割あった。

問8 貴事業所の外国人従業員の中に、日常会話レベルでの日本語能力が不十分だと思われる方はいますか。そのような外国人従業員はどのくらいいますか。

	回答数	%
①たくさんいる	11	17.7
②半数くらいいる	13	21.0
③少しいる	21	33.9
④いない	17	27.4
計	62	100.0

問9 外国人従業員との日本語でのコミュニケーションにおいて、困ることはありますか。

	回答数	%
①よくある	12	19.4
②時々ある	25	40.3
③あまりない	12	19.4
④ほとんどない	11	17.7
⑤何ともいえない	1	1.6
無回答	1	1.6
計	62	100.0

【困ったこと of 具体的な事例】(自由記述)

- 病院受診時や健康診断のとき。
- 仕事で使用する専門的な用語は翻訳が難しい。翻訳アプリ等でも翻訳ができない。
- (外国人従業員が)勉強してきた文法的に正しい日本語は、実際に使われる日常の日本語とは違うため難しい。方言があったり、主語が省略されたりする。
- 理解してもらったと思っても、実際には伝わっていなかったりする。

7割以上の事業所が、日常会話レベルでの日本語能力が不十分な外国人従業員がいると回答し、約4割の事業所では、そのような外国人従業員が半数以上いると認識している。また、実際に日本語でのコミュニケーションにおいて困ることが「よくある」「時々ある」事業所は、6割近くになった。

[外国人従業員に対する日本語学習の支援について]

問10 貴事業所では外国人従業員の日本語学習に対して、何らかの支援を行っていますか。

	回答数	%
①している	20	32.3
②していない	42	67.7
計	62	100.0

問11 問10で「①している」と回答した事業所にお聞きします。どのような支援を行っていますか。(複数回答)

	回答数	%
①自社で日本語研修を実施している	9	45.0
②外部に日本語研修を委託している	5	25.0
③近隣の日本語学校や地域の日本語教室を紹介している	5	25.0
④日本語学校や地域の日本語教室に通う費用を(一部でも)負担している	3	15.0
⑤日本語学校や地域の日本語教室に通いやすいように、勤務時間を考慮している	1	5.0
⑥日本語学校や地域の日本語教室への送迎をしている	0	0.0
⑦その他(自由記述) ・本人に仕事の内容を日報にて提出してもらい、都度担当者が確認。間違いも都度教えている。「職場の教養」(毎月発行、漢字ふりがな付き)を渡して、読むことを教えている。 ・テキスト代の補助。今年度中にWEB配信の日本語授業を会社負担で受講開始。	3	15.0

問11-2 (②を選択した事業所において)委託先

委託先	回答数
企業	3
個人	1
無回答	1

問11-3 (③を選択した事業所において)どちらの学校、教室を紹介していますか。  
(自由記述)

※各事業所につき1教室ずつ回答が得られた。

問11-4 (④を選択した事業所において)一人当たりどのくらい負担していますか。  
(自由記述)

● 月2万円、経営の1名のみ	● 旅費も含め1回800円程度	● 全額
----------------	-----------------	------

問12 問11で①または②のいずれかを選んだ事業所にお聞きします。

※①と②の両方を選択した事業所が1社あるため、回答数は13

ア. 日本語研修の概要を教えてください(1か月あたりの実施回数、実施日時・曜日、1回あたりの時間、1回あたりの平均出席人数、主に出席している従業員の国籍など)。

(自由記述)

● 1か月に1回1時間程度。ベトナム人4人。
● ①毎週水曜日16:30~19:30、参加者数約20人。ブラジル、フィリピン、中国、ペルーな

ど。②1回/週 8:15～17:15、技能実習生向け日本語スキルアップ研修参加者8人。
● 研修という程ではないが、基礎級試験前2か月くらいから週2回1時間程度、就業後に試験勉強会を実施、2～3人参加、ミャンマー。
● 交換日記を2週間に1回、日本語研修を月に2回。
● 今はコロナ対策で、密になるのでやっていないが、通訳プラス日本人1人で実習生を対象に実施(月1回、2時間程)。
● 週1回、2～3時間程度。
● 週1回2時間程度(火曜日)、ベトナム。
● 宿題形式で、自宅で解答させているので、詳細は把握していないが、1回あたり30分から1時間程度と思われる。
● 入社から1年間、個々の進捗に応じて、オンラインやプリントなどの教材を配布。
● 毎日テストを一人一人自身で勉強させて、翌日添削指導する。
● 来所後、入業前に1.5か月、資格取得のために日本語及び技術指導。入業後、17時以降、6か月間、1時間(残業手当あり)、教育。

※記述なし(2)

イ. どのような内容を教えていますか。(複数回答)

	回答数	%
①挨拶等の基本的な日本語	6	46.2
②日本人とのコミュニケーションをとるための日常会話	10	76.9
③仕事に必要な専門用語等の日本語	7	53.8
④敬語等のビジネスマナーに関する日本語	5	38.5
⑤日本語能力試験の対策 (レベルは <input type="checkbox"/> N1 <input type="checkbox"/> N2 <input type="checkbox"/> N3 <input type="checkbox"/> N4 <input type="checkbox"/> N5 )	6	46.2
⑥その他(自由記述) ・「みんなの日本語」使用 ・基礎級試験のための勉強会	2	15.4

イ-2 (⑤を選択した事業所において)日本語能力試験のレベル(複数回答)

	N3	N4	無回答
回答数	3	3	1

ウ. 日本語研修を実施した理由、目的をお聞かせください。

● 安全に技術実習を行うため。日本の技術及び文化を修得するため。
● 外国籍の職員が多くて、この職員たちのスキルアップのために。将来は、日本語能力を向上させて、介護福祉士国家資格取得者を増やし、外国籍職員のキャリアアップを目指すために、まずは、日本語研修に取り組んでいる。
● 業務に支障が出るため本人たちがN3、N4試験を受験したいと願い出たため。
● 試験合格に向けて。
● 仕事を安心して任せることができないと思ったため。
● 仕事で必要な日常会話の習得のため。
● 実習生が楽しく日本語で生活、技術習得できるようになるため。
● 社内でのコミュニケーションを日本語で図るため。
● 来日半年がたったが日本語レベルの向上が見られないため。
● 日本語を覚えて、今後ベトナムで活かしてほしい。

エ. 日本語研修を実施して、その目的は達成されたと思われますか

	回答数	%
①達成した(する見込み)	2	15.4
②ある程度は達成した(する見込み)	6	46.2
③あまり達成しなかった(しない見込み)	5	38.5
④ほとんど達成しなかった(しない見込み)	0	0.0
計	13	100.0

エ-2 (③④を選択した事業所において)その理由はなぜだと思われますか。

(自由記述)

● コロナの関係もあると思うが、本人たちの学習意欲がなくなった。
● 本人にその意思がないと、週1回の授業だけでは習得するのは難しいと思う。
● 本人たちの自習が足りない。教え方が悪い。
● 教える側のスキル不足。
● 進捗管理ができていなかったか。

オ. 日本語研修を実施した際に、苦勞したことや問題になったこと、今後の課題等があればお聞かせください。(自由記述)

● 研修実施者も、相手国の文化、言語をもっと知るべきだと思う。
● 各個人で日本語能力に差があるため、レベル別でクラス分けをすると、クラス数が多くなり、教える側の負担が大きくなってくる。介護の現場で働いているため、交代勤務で、参加がしにくい。
● 教材と進捗のフォローでは個人の日本語勉強意欲の差で結果に大きく影響がある。
● 理解力のある人となない人の差が大きくなってきている。
● 実習生が授業を受けたくないと言ってきたときがある。そのときは中断した。
● 発音が合わない。29人もいとやる気に差が出る。
● 少人数なのでわからないことがあれば都度確認しながらの勉強会のため特にない。
● 今現在は、新型コロナの関係で外出もままならないので、地域の文化を含めた、交流を含めた活動もできない。

カ. 今後も日本語研修を実施する予定ですか。

	回答数	%
①はい	9	69.2
②検討中	3	23.1
③いいえ	1	7.7
計	13	100.0

カ-2 上記の回答理由(自由記述)

①はい ※記述なし 2事業所
● 引き続き外国人社員を雇用する予定であるため。
● 外国人従業員の業務の幅を広げるため必要だから。
● 業務を円滑に遂行するため。
● 週1回でも継続していけば力がついてくると思うため。
● 法人の事業として、今後も継続していく予定。
● お互いが人間として成長するため。
● 理解力のある人となない人の差が大きくなってきている。
②検討中 ※記述なし 2事業所
● 本人たちにどうやればやる気が出るか。
③いいえ
● 本人たち次第(個々に対応する)

問13 (問10で「②していない」と回答した事業所において)外国人従業員の日本語学習を支援しない理由は何ですか。(複数回答)

	回答数	%
①直接雇用の関係ではないから	2	3.2
②事前に日本語研修を受けて来ているから	23	37.1
③社内でのコミュニケーションに日本語を必要としないから	1	1.6
④日本語でのコミュニケーションに不自由がないから	16	25.8
⑤事業所内に通訳がいるから	5	8.1
⑥外国人従業員が自身で行うべきだと考えているから	10	16.1
⑦諸手当等で奨励していると考えているから	0	0.0
⑧日本人外国人問わず研修費用が限られるから	1	1.6
⑨日本語研修に関するノウハウがないから	2	3.2
⑩その他(※)	11	17.7

※「⑩その他」の自由記述回答

● チームです仕事なので、工作中・休憩中、一日中、会話しているのでそれが日本語研修教育になっている。
● 監理団体から定期的ではないが、時々日本語教室に連れて行ってもらっているから。
● 仕事上や日常会話でゆっくり声掛け、少しずつ話せるように接している。人によって差があるが、3年でまあまあ話せるようになっていく。
● 日本語研修の意欲に個人差があり、それぞれに社宅で独学する実習生もいる。希望者にはその都度、サポートしている。休日や時間外に意欲のない人にまで日本語研修を強制できない。
● 以前は行っていたが、人数も増え対応しきれない状況になってしまった。
● 近くの日本語学校(教室)を探し、提案したが、本人たちが通う気がない。
● パート従事者なので時間がとれない。
● 安全上の問題もあることから、(採用時において)日本語でのコミュニケーション力は最低条件であると考えている。
● (監理)組合から通訳が毎月1回は来る。
● (監理)組合の通訳の方に連絡を取ってもらっている。

問9において、多くの事業所には日本語能力が不十分な外国人従業員がおり、日本語でのコミュニケーションにおいて困ることがあるとしながら、日本語学習に対して支援を行っている事業所は3割程度であった。また、業務に支障があることから日本語研修を実施していても、教え方や外国人従業員の意欲などに課題を感じており、総じて、日本語教育プログラムについて専門的な見地からのアドバイスが必要な状況であるように思われる。

### [三重県日本語教育推進計画(仮称)について]

問14 県内の外国人住民の日本語習得を支援するため、「三重県日本語教育推進計画(仮称)」を策定する予定です。外国人住民が働きやすく暮らしやすい環境づくりに向けて、①企業としてできること・支援したいと考えていること、②他団体(行政機関、国際交流協会、大学等の高等教育機関、日本語教育機関、地域の日本語教室等)への期待や要望、③地域住民への希望や提案など、日本語教育のみならず、様々な面について自由にご意見をご記入ください。(自由記述)

<p>①企業の役割</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業として、問 12.アの継続。毎月1回の連絡会議及び安全勉強会。3 ヶ月に 1 回のリーダー会議（飲食伴う）の実施、継続。朝、夕のコミュニケーションの励行。受診対応。トラブル対応。生活指導研修。</li> <li>● まずは自社で就労している外国人にしっかりとルールを守って安全に仕事をしてもらう。外国人同士のネットワークも広げたいが、よくない情報交換やリスクのほうが多いと感じる。金銭面等の対応は可能。また、会合参加も OK。</li> <li>● 現在会社の負担で実習生には日本語を勉強する機会を設けているので、引き続きやっていきたい。</li> <li>● N2 取得に向けての教育方法を検討中。</li> </ul>
<p>②県への要望等</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● （行政へ）介護の現場では、人材不足のため外国人介護人材の現場への投入が増えてくる背景の中で、外国人介護人材の育成やスキルアップを受け入れ側にすべて託すのは、負担が大きいと思う。質の高い介護人材の安定的な確保は、日本全体の課題でもあることから、行政からの支援も期待したい。</li> <li>● 日本語教育をできる（していただける）環境が欲しい。</li> <li>● （行政へ）市の支援が少ないと思う。防災を含めた情報発信もベトナム語ではない。今回のコロナの情報（地域発信の情報）もない。文化交流の催しも、県も含めて企業には情報がまったく届いてこない。</li> <li>● 外国人従業員への教育費用などの補助。外国語（ベトナム）対応の講習開催、ポケットクなどの無料貸出（人数分）。</li> <li>● 外国人が増えている現在、県として取り組んでいただけるのはありがたい。</li> </ul>
<p>③他団体への希望や提案</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在、他団体との交流はないので、どのような活動団体があるのか把握していないが、弊社の技能実習生が興味を示す活動があれば、参加等考えたい。</li> <li>● 同業種の交流会があれば非常に刺激になると思う。外国人従業員が資格取得する場合の難易度は非常に高く、現地の言葉での試験開催などを希望する。</li> <li>● “外国人の集い”を、自転車等、外国人が自力で行ける場所で開催してもらえると、本人も企業もうれしい。</li> <li>● 方言のベトナム語訳紹介等。</li> </ul>
<p>④その他</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社内の外国の方やそのご家族、地域の外国の方に対してコミュニケーションを取っていきたいと考えている。その中で外国の方に対するサポート方法を考えていきたいと思う。日本語教育、災害時の対応、食べ物等のサポートができればと思う。地域で色々な取り組みをされている企業があると思うので、事例紹介や講演などをしていただくと参考になる。地域の企業が連携して外国の方をサポートする事も検討いただきたい。</li> <li>● 監理団体に依頼している。</li> <li>● 日本語教育への助成金。地域に日本語教室を開設してほしい。</li> <li>● 雇用口を増やす。日本のビジネスマナーなどの勉強の機会を作る。生活のマナーの指導。</li> <li>● 会社の公休日は平日であり、土・日に開かれる交流会などに参加することは、少し無理な気がする。また、私の考えは、職場で仲間（日本人）と数多く話すことが言葉を覚える近道ではないかと思っている。みんなとわいわい話したり、笑っている姿を見ていると一日一日言葉は増えてくるのを感じている。</li> <li>● コロナ感染の危険があるので、今考えていない。今社内で日本人従業員とのコミュニケーションで徐々にだが、日本語力も上がっている。去年帰国の実習生で N3 に合格した者が2名いた。</li> <li>● あまり細かなことは言う必要もないが、日本での様々なマナーの教育は必要かと思う（地域住民とのトラブル回避のためにも）。</li> </ul>



- この地域の公立小中学校だと10%あまりが外国籍であるが、PTAの行事でも保護者の参加が少ない。当然地域の行事参加も少ないように思う。
- やる気、覚える気のない外国人に対しては、対策は難しいと思う。
- 外国人人材が今後は必要であることは十分理解しているが、語学だけが問題で書類の読み書きができることが必要。また、外国人はパートが多く、研修時間が取りにくいのが現状。
- 全員日本語学校または日本の大学を卒業している。
- 弊社スタッフの日本語レベルであるならば、支援のお役に立てるのではないかと思います。

問15 外国人従業員に関連して、他団体（行政機関、国際交流協会、大学等の高等教育機関、日本語教育機関、地域の日本語教室等）と連携や交流をしていますか。

	回答数	%
①現在、既に連携や交流をしており、継続したい	2	3.2
②現在は行っていないが、今後は連携や交流をしたい	22	35.5
③連携や交流を考えていない	33	53.2
④その他（自由記述） ・小学校へ出向き、交流を図っている。 ・特に考えていなかった。	2	3.2
無回答	3	4.8
計	62	100.0

問16 行政と企業が連携した日本語教室の開催について関心がありますか。

	回答数	%
①関心がある	23	37.1
②関心がない	13	21.0
③わからない	21	33.9
④その他	2	3.2
無回答	3	4.8
計	62	100.0

※「④その他」の自由記述回答

- 日本語に関しては日々日常の中での吸収が十分なため、弊社として日本語教室に関しては必要ないとする。
- 協力企業の人材不足に対し、外国人労働者を採用したいが、コミュニケーションの問題もあり、ためられるケースもあるので。

現時点で、他団体と連携・交流をしている事業所は少ないが、今後したいと考えている、あるいは行政と連携した日本語教室の開催について関心があると回答した事業所は4割弱あった。県内の日本語教育体制を構築していく上で、今後企業との連携・協力を進めていくことが期待される。

問17 本調査についてご意見・ご質問等ありましたら、ご記入ください。

- 外国人の集いがあれば、情報案内等の連絡が欲しい。
- 行政と企業が連携し、日本語の勉強に協力していくことはやっていきたいと思う。しかし、企業側の負担が大きいと継続が難しくなると思うので、本人たちが自分の力で企業側の手を煩わせないで利用できる仕組みを求めたいと思う。
- ただ日本語を教えるだけでなく、血の通った日本語教育になるようお願いしたい。
- まず、どのようなことをするかビジョンを示していただいたほうが良いと思う。
- 今現在、コロナ感染による危険もあるため、実習生には安全を考慮し、外出をなるべく控えるようにアドバイスしているので、また、時期を見て、考えていく。
- 今後は外国人の採用は予定していない

## G. 日本語学校や日本語教室に通っていない外国人住民

※3カ月未満の滞在者、子ども、学生は除く

### [日本語学習について]

問1 あなたは、現在、日本語を学んでいますか。

	回答数	%
①学んでいる	38	36.2
②学んでいない	67	63.8
計	105	100.0

問2 (問1で「①学んでいる」と回答した人へ)どのように日本語を学んでいますか。  
(複数回答)

	回答数	%
①ひとりで	30	78.9
②通信教育で	0	0.0
③家族から学んでいる	6	15.8
④職場で学んでいる	8	21.1
⑤友人知人から学んでいる	13	34.2
⑥その他(自由記述) ・定住外国人就職支援コース(2) ・記述なし(1)	3	7.9
無回答	1	2.6

問2-2 (「①ひとりで」と回答した人へ)使用しているものは何ですか。(複数回答)

	回答数	%
テレビやラジオ	9	30.0
インターネットやアプリ	20	66.7
教科書	18	60.0
その他(自由記述) ・オンラインコース(1) ・記述なし(4)	5	16.7
無回答	2	6.7

問3 (問1で「①学んでいる」と回答した人へ)なぜ日本語を学んでいますか。  
(3つまで選択)

	回答数	%
①日本で生活するために必要だから	31	81.6
②日本人と交流したいから	16	42.1
③仕事で必要だから	27	71.1
④より良い条件の仕事をしたいから	10	26.3
⑤進学や学校の勉強に必要なから	1	2.6
⑥子育てに必要なから	12	31.6
⑦資格を取得したいから →何の資格ですか。 ・専門学校(1) ・記述なし(3)	4	10.5
⑧日本語能力試験に合格したいから	13	34.2
⑨他の人に勧められたから	1	2.6
⑩日本語を勉強するのが趣味だから	2	5.3
⑪わからない/特に理由はない	0	0.0
⑫その他	0	0.0

問4（問1で「②学んでいない」と回答した人へ）あなたは日本語を学びたいですか。

	回答数	%
①学びたいとは思わない	12	17.9
②学びたい	55	82.1
計	67	100.0

問4-2（「②学びたい」と回答した人へ）なぜ学びたいですか。（3つまで選択）

	回答数	%
①日本で生活するために必要だから	44	80.0
②日本人と交流したいから	30	54.5
③仕事で必要だから	30	54.5
④より良い条件の仕事をしたいから	13	23.6
⑤進学や学校の勉強に必要なから	0	0.0
⑥子育てに必要なから	14	25.5
⑦資格を取得したいから	2	3.6
⑧日本語能力試験に合格したいから	11	20.0
⑨他の人に勧められたから	2	3.6
⑩日本語を勉強するのが趣味だから	5	9.1
⑪わからない／特に理由はない	0	0.0
⑫その他	0	0.0

問5（問1で「②学んでいない」と回答した人へ）現在、学んでいないのはなぜですか。

（複数回答）

	回答数	%
①もう日本語ができるから	5	7.5
②日本語を使う必要がないから／日本語以外の言語で生活できるから	1	1.5
③どうやって勉強したらいいか、わからないから	15	22.4
④学ぶ意欲が湧かないから	4	6.0
⑤日本語を学ぶ時間的余裕がないから	36	53.7
⑥金銭的な余裕がないから	13	19.4
⑦日本語教室の情報がないから	12	17.9
⑧日本語教室の内容（場所、時間、教え方、レベルなど）が合わないから	11	16.4
⑨その他（自由記述） ・育児のため（3）・頭が悪いから（1）・記述なし（1）	5	7.5
無回答	1	1.5

現在は日本語を学んでいないが、「学びたい」と考えている外国人住民が8割以上いた。現在日本語を学んでいない理由として、「①日本語を学ぶ時間的余裕がないから」が最も多い結果となった。しかし、それ以外については、「③どうやって勉強したらいいか、わからないから」「日本語教室の情報がないから」といった学習方法やリソースの面での理由であった。「⑥金銭的な余裕がないから」についても、必ずしもお金をかけなくても日本語を学習する方法があり、地域の日本語教室の多くが無料に近い参加費であることから、日本語学習に関する情報を広く周知する必要があると思われる。

問6 あなたが日本語教室で日本語を学ぶとしたら、どんな日本語教室が良いですか。

(3つまで選択)

	回答数	%
①日本語教室の参加費が無料または安いこと	54	51.4
②日本語教室の活動時間が合うこと	63	60.0
③日本語教室が自宅や職場、学校などの近くにあること	55	52.4
④自分が学びたいことと、日本語教室の教え方や内容、レベルが合うこと	27	25.7
⑤日本語能力試験の対策をしてくれること	32	30.5
⑥良いテキストや教材を使っていること	21	20.0
⑦日本語の勉強以外にいろいろなイベントがあること	19	18.1
⑧インターネットを使ったオンライン授業があること	38	36.2
⑨日本語教室に行くつもりはない／日本語教室に行く必要がない	2	1.9
⑩その他(自由記述) ・自由に時間が選べること。・無料の駐車場があるといい。	3	2.9
無回答	2	1.9

問6-2 (①を選択した人へ)1回[1時間]あたりいくらまでなら通いたいですか。

	回答数	%
200円	9	16.7
500円	8	14.8
1000円	7	13.0
1,000円	5	9.3
5,000円	1	1.9
無回答	24	44.4
計	54	100.0

問6-3 (②を選択した人へ)都合がいい曜日や時間帯があれば教えてください。

※自由記述をもとに、開始時間を基準にして分類した。数字は回答数。

開始時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前						
午後 (18時まで)						10
夜間 (18時以降)	1				1	
時間指定なし	1	2	2	1	2	12
開始時間	日曜日	祝日	休日	週末	毎日	曜日指定なし
午前	2					3
午後 (18時まで)	2					1
夜間 (18時以降)						6
時間指定なし	11	2	2	2	1	

問6-4 (②を選択した人へ) 1週間に何回くらい通いたいですか。

	回答数	%
週1回	30	48
週2回	14	22
週5回	4	6
週3回	4	6
週2,3回	2	3
無回答	9	14
計	63	100

どんな日本語教室が良いかについては、参加費および活動時間、場所についての希望が多かったが、次いで「⑧インターネットを使ったオンライン授業があること」が挙げられた。今年度は、既にオンライン授業を開始した日本語教室もあるが、県内に散在し、ライフスタイルも様々な外国人住民のニーズに応えるための手段として、オンライン授業の導入は今後検討していく必要がある。

問7 あなたは日本語が不自由なために、困ったことがありますか。特に困った場面を3つまで選んでください。

	回答数	%
①近所付き合いで	32	30.5
②電車やバスに乗るとき	11	10.5
③買い物で	22	21.0
④役所の手続きで	34	32.4
⑤郵便局・銀行での手続きで	41	39.0
⑥仕事を探すとき	22	21.0
⑦仕事で	53	50.5
⑧病気になったとき	46	43.8
⑨学校や幼稚園等とのやりとりで	20	19.0
⑩困ったことはない	7	6.7
⑪その他	0	0.0

**【あなたの日本語能力について】**

問8 あなたは日本語能力試験を受けたことがありますか。

	回答数	%
①受けたことがある	38	36.2
②受けたことがない	66	62.9
無回答	1	1.0
計	105	100.0

問8-2 (①を選択した人へ) 合格したすべてのレベルを教えてください。(複数回答)

	回答数	%
N1	3	7.9
N2	3	7.9
N3	14	36.8
N4	7	18.4
N5	7	18.4
合格したことがない	6	15.8
無回答	1	2.6

問9 あなたは日本語がどのくらいできますか。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つについて、それぞれ近いものを1つずつ選んでください。

(1) 聞く

	回答数	%
①テレビのニュース、ドラマを聞いて、理解できる	10	9.5
②相手の言うことを聞いて、大体理解できる	22	21.0
③相手がゆっくり話せば聞いて、理解できる	38	36.2
④単語だけ聞き取れる	24	22.9
⑤ほとんど聞き取れない	10	9.5
無回答	1	1.0
計	105	100.0

(2) 話す

	回答数	%
①自分の言いたいことが問題なく話せる	8	7.6
②自分の言いたいことが大体話せる	27	25.7
③簡単な日常会話ができる	36	34.3
④自己紹介、決まった挨拶、単語なら言うことができる	27	25.7
⑤ほとんど話せない	7	6.7
計	105	100.0

(3) 読む

	回答数	%
①役所や学校、職場からの手紙やお知らせを読んで、理解できる	7	6.7
②役所や学校、職場からの手紙やお知らせを読んで、少し理解できる	15	14.3
③新聞や雑誌の広告やチラシ、駅の時刻表や案内板を見て、欲しい情報が取れる	19	18.1
④絵の付いた簡単な指示（ごみの捨て方、料理の作り方など）が分かる	49	46.7
⑤ほとんど読めない	14	13.3
無回答	1	1.0
計	105	100.0

(4) 書く

	回答数	%
①仕事の報告書や学校の先生に子供の状況を伝える連絡、料理の作り方など、状況や方法を説明する文章を書くことができる	6	5.7
②日常生活や自分のふるさと、自分の経験について紹介する文章を書くことができる	7	6.7
③職場の同僚や学校の先生、家族に要件を伝える簡単なメモなどを書くことができる	28	26.7
④名前や国名、住所などが書ける	45	42.9
⑤ほとんど書けない	18	17.1
無回答	1	1.0
計	105	100.0

[回答者の属性について]

問10 居住している市町

	回答数	%
四日市市	26	24.8
津市	15	14.3
鈴鹿市	14	13.3
桑名市	13	12.4
松阪市	11	10.5
伊勢市	9	8.6
菰野町	3	2.9
亀山市	1	1.0
いなべ市	1	1.0
朝日町	1	1.0
無回答	11	10.5
計	105	100.0

問11 性別

	回答数	%
①男	47	44.8
②女	56	53.3
③答えたくない	1	1.0
無回答	1	1.0
計	105	100.0

問12 年齢

	回答数	%
①～19歳	1	1.0
②20～29歳	27	25.7
③30～39歳	26	24.8
④40～49歳	30	28.6
⑤50～59歳	13	12.4
⑥60～69歳	4	3.8
⑦70歳～	1	1.0
⑧答えたくない	2	1.9
無回答	1	1.0
計	105	100.0

問13 出身

	回答数	%
①ブラジル	40	38.1
②ベトナム	27	25.7
③中国	9	8.6
④フィリピン	12	11.4
⑤韓国	0	0.0
⑥ペルー	10	9.5
⑦インドネシア	0	0.0
⑧タイ	1	1.0
⑨ネパール	1	1.0
⑩ボリビア	1	1.0
⑪その他（自由記述） ・カナダ（1） ・バングラデシュ（1） ・パラグアイ（1） ・記述なし（1）	4	3.8
⑫答えたくない	0	0.0
計	105	100.0

問14 在留資格を教えてください。

	回答数	%
①永住者	38	36.2
②技能実習	16	15.2
③定住者	18	17.1
④特別永住者	0	0.0
⑤日本人の配偶者等	10	9.5
⑥技術・人文知識・国際業務	13	12.4
⑦家族滞在	4	3.8
⑧答えたくない	1	1.0
⑨その他（自由記述） ・二重国籍（1） ・就労（2） ・経営（1） ・記述なし（1）	5	4.8
計	105	100.0

問15 通算でどのくらい日本で生活していますか。

	回答数	%
①1年未満	0	0.0
②1年以上3年以上	23	21.9
③3年以上5年未満	15	14.3
④5年以上	65	61.9
⑤答えたくない	1	1.0
無回答	1	1.0
計	105	100.0

問16 今後も日本で生活する予定ですか。

	回答数	%
①帰国する予定	13	12.4
②住み続ける	42	40.0
③まだ決めていない／わからない	44	41.9
④答えたくない	3	2.9
無回答	3	2.9
計	105	100.0

問16-2 (①を選択した人へ)いつぐらいですか。

	回答数	%
2021年	3	23.1
2022年8月	2	15.4
2022年3月	1	7.7
2021年11月	1	7.7
5年後	1	7.7
10年後	1	7.7
分からない	1	7.7
いつでも	1	7.7
無効回答（2020年1月）	1	7.7
無回答	1	7.7
計	13	100.0



問16-3 (②を選択した人へ)どのくらいですか。

	回答数	%
永住	6	14.3
決めていない	6	14.3
20年	3	7.1
退職するまで	2	4.8
30年	1	2.4
10年以上	1	2.4
2年	1	2.4
3年	1	2.4
5年	1	2.4
契約に応じて	1	2.4
長い期間	1	2.4
無回答	18	42.9
計	42	100.0

問17 現在、仕事をしていますか。

	回答数	%
①している	88	83.8
②していない	9	8.6
③仕事を探している	2	1.9
④答えたくない	4	3.8
⑤その他	1	1.0
無回答	1	1.0
計	105	100.0

問17-2 (①を選択した人へ)どんな仕事をしていますか。

	回答数	%		回答数	%
工場	18	20.5	リサイクル, 学校, 会社員, オペレーター, リフト	各2	各2.3
アルバイト, 飲食店, 介護, 通訳・翻訳, 食品, 検査, 水産加工	各3	各3.4	CAE, エンジニア, サービス, マッサージ, 運転手, 担当者, ホテル, 建築, 自動車部品の検査, 電子部品	各1	各1.1
溶接	4	4.5	無回答	17	19.3
教師	9	10.2	計	88	100.0

### [その他]

問18 このアンケートの回答内容について、後日インタビューに協力していただけませんか。

	回答数	%
①はい	81	77.1
②いいえ	23	21.9
無回答	1	1.0
計	105	100.0

問19 2021年1月～2月頃に、日本語教室の開催を予定しています。興味がありますか。

	回答数	%
①はい	81	77.1
②いいえ	23	21.9
無回答	1	1.0
計	105	100.0

問20 ご自宅にインターネット環境がありますか。

	回答数	%
①はい	97	92.4
②いいえ	7	6.7
無回答	1	1.0
計	105	100.0

問21 インターネットが使用可能な次の機材をお持ちですか。(複数回答)

	回答数	%
①パソコン	54	51.4
②スマートフォン	89	84.8
③タブレット	25	23.8
④持っていない	3	2.9
⑤その他	0	0.0
無回答	2	1.9

日本語能力試験については、3割以上は受験経験があり、うち合格したレベルはN3が3割以上で最も多かった。

現在日本語教室に通っていない外国人住民は、時間がないことや近くにないことなどから、日本語教室に通うのが難しい状況にあると考えられる。そのため、問6においてオンライン授業への要望が高い結果となったが、問20、21からほとんどの人がオンライン授業を受けられる環境にあることがわかる。

## H. 日本語教室の学習者

### [日本語学習について]

問1 なぜ日本語を学んでいますか。(3つまで選択)

	回答数	%
①日本で生活するために必要だから	55	85.9
②日本人と交流したいから	39	60.9
③仕事で必要だから	40	62.5
④より良い条件の仕事をしたいから	14	21.9
⑤進学や学校の勉強に必要なだから	1	1.6
⑥子育てに必要なだから	16	25.0
⑦資格を取得したいから	1	1.6
⑧日本語能力試験に合格したいから	19	29.7
⑨他の人に勧められたから	2	3.1
⑩日本語を勉強するのが趣味だから	12	18.8
⑪わからない/特に理由はない	0	0.0
⑫その他	0	0.0

問2 日本語教室に通っている理由は何ですか。(3つまで選択)

	回答数	%
①日本人と交流できるから	55	85.9
②他の外国人と交流できるから	9	14.1
③自分が勉強したいことを教えてもらえるから	31	48.4
④生活情報を得られるから	29	45.3
⑤使用している教材がいいから	4	6.3
⑥教え方がわかりやすいから	13	20.3
⑦教室の雰囲気が好きだから	22	34.4
⑧日本語の勉強以外にいろいろなイベントがあるから	7	10.9
⑨(家・職場・学校などから)近いから	10	15.6
⑩(交通の便が良かったり、会場が駅の近くだったりなどから)通いやすいから	4	6.3
⑪参加費が安いから	14	21.9
⑫家族または友人・知人が参加しているから	2	3.1
⑬子どもを連れていけるから	0	0.0
⑭その他	0	0.0
無回答	1	1.6

問3 現在参加している日本語教室の名前を教えてください。複数の教室に参加している場合は、すべての教室の名前を教えてください。また、教室の情報についてどこで知りましたか。情報の入手先について番号を書いてください。

教室の名前 (自由記述)	回答数	%	情報の入手先							
			①教室の ウェブサ イト	②教室の SNS	③市町の ウェブサ イトや広 報	④三重県 国際交流 財団 (MIEF) から	⑤チラシ	⑥ロコミ	⑦その他	無回答
A	24	37.5	1	1	3	0	0	16	2	1
B	10	15.6	0	1	0	0	0	8	0	1
C	9	14.1	1	0	6	1	0	1	0	0
D	5	7.8	0	0	3	0	1	0	0	1
E	5	7.8	0	0	0	2	0	3	0	0
F	4	6.3	0	0	0	0	2	2	0	0
G	3	4.7	1	0	1	1	0	0	0	0
H	2	3.1	0	0	0	0	1	1	0	0
I	1	1.6	1	0	0	0	0	0	0	0
J	1	1.6	0	0	0	0	0	0	1	0
K	1	1.6	1	0	0	0	0	0	0	0
L	1	1.6	0	0	1	0	0	0	0	0
M	1	1.6	0	0	0	0	0	0	1	0
N	1	1.6	0	0	0	0	0	1	0	0
記述なし	3	4.7	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	回答数		5	2	14	4	4	32	4	3
	%		7.4	2.9	20.6	5.9	5.9	47.1	5.9	4.4

問4 日本語教室を選ぶときに重視することは何ですか。(3つまで選択)

	回答数	%
①日本語教室の参加費が無料または安いこと	24	37.5
②日本語教室の活動時間が合うこと	45	70.3
③日本語教室が自宅や職場、学校などの近くにあること	30	46.9
④自分が学びたいことと、日本語教室の教え方や内容、レベルが合うこと	37	57.8
⑤日本語能力試験の対策をしてもらえること	12	18.8
⑥良いテキストや教材を使っていること	11	17.2
⑦日本語の勉強以外にいろいろなイベントがあること	22	34.4
⑧インターネットを使ったオンライン授業があること	9	14.1
⑨その他(自由記述) ・先生のレベル ・オンラインではない教室 ・話す練習ができる ・タイ語ができる先生がいること ・ビジネス日本語が学べる	5	7.8
無回答	1	1.6

問4-2 (①を選択した人へ)1回(1時間)あたりいくらまでなら通いたいですか。

	回答数	%
200円	5	20.8
500円	5	20.8
100円	2	8.3
300円	2	8.3
50円	1	4.2
200~300円	1	4.2
200~500円	1	4.2
800円	1	4.2
2,000円	1	4.2
無回答	5	20.8
計	24	100.0

問4-3 (②を選択した人へ)都合がいい曜日や時間帯があれば教えてください。

※自由記述をもとに、開始時間を基準にして分類した。数字は回答数。

開始時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	4	5	3	4	4	
午後 (18時まで)	2	3	3	4	3	
夜間 (18時以降)	2	5	2	2	5	
時間指定なし	1	1	4	1	1	9
開始時間	日曜日	祝日	休日	週末	毎日	曜日指定なし
午前	1					2
午後 (18時まで)	2					2
夜間 (18時以降)						
時間指定なし	8			1	2	

問4-4 (②を選択した人へ)1週間に何回くらい通いたいですか。

	回答数	%
週1回	16	35.6
週2回	8	17.8
週5回	4	8.9
週2~3回	3	6.7
週3~4回	3	6.7
週3回	3	6.7
週1~2回	1	2.2
無回答	7	15.6
計	45	100.0

問5 日本語教室以外で日本語を学んでいますか。

	回答数	%
①はい	44	68.8
②いいえ	18	28.1
無回答	2	3.1
計	64	100.0

問6 (問5で「①はい」と回答した人へ)どのように日本語を学んでいますか。(複数回答)

	回答数	%
①ひとりで	35	79.5
②通信教育で	1	2.3
③家族から学んでいる	4	9.1
④職場で学んでいる	8	18.2
⑤友人・知人から学んでいる	11	25.0
⑥その他(自由記述) ・日本語のビジネス本や自己啓発本(1) ・民間の自習教室(2)	3	6.8

問6-2 (「①ひとりで」と回答した人へ)使用しているものは何ですか。(複数回答)

	回答数	%
テレビやラジオ	9	25.7
インターネットやアプリ	25	71.4
教科書	22	62.9
その他(自由記述) ・You Tube	1	2.9

**[あなたの日本語能力について]**

問7 あなたは日本語能力試験を受けたことがありますか。

	回答数	%
①受けたことがある	24	37.5
②受けたことがない	37	57.8
無回答	3	4.7
計	64	100.0

問7-2 (①を選択した人へ)合格したすべてのレベルを教えてください。(複数回答)

	回答数	%
N1	2	8.3
N2	8	33.3
N3	11	45.8
N4	9	37.5
N5	7	29.2
合格したことがない	4	16.7

問8 あなたは日本語がどのくらいできますか。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つについて、それぞれ近いものを1つずつ選んでください。

(1) 聞く

	回答数	%
①テレビのニュース、ドラマを聞いて、理解できる	4	6.3
②相手の言うことを聞いて、大体理解できる	18	28.1
③相手がゆっくり話せば聞いて、理解できる	26	40.6
④単語だけ聞き取れる	11	17.2
⑤ほとんど聞き取れない	5	7.8
計	64	100.0

(2) 話す

	回答数	%
①自分の言いたいことが問題なく話せる	3	4.7
②自分の言いたいことが大体話せる	19	29.7
③簡単な日常会話ができる	25	39.1
④自己紹介、決まった挨拶、単語なら言うことができる	15	23.4
⑤ほとんど話せない	2	3.1
計	64	100.0

(3) 読む

	回答数	%
①役所や学校、職場からの手紙やお知らせを読んで、理解できる	9	14.1
②役所や学校、職場からの手紙やお知らせを読んで、少し理解できる	17	26.6
③新聞や雑誌の広告やチラシ、駅の時刻表や案内板を見て、欲しい情報が取れる	5	7.8
④絵の付いた簡単な指示(ごみの捨て方、料理の作り方など)が分かる	26	40.6
⑤ほとんど読めない	7	10.9
計	64	100.0

(4) 書く

	回答数	%
①仕事の報告書や学校の先生に子供の状況を伝える連絡、料理の作り方など、状況や方法を説明する文章を書くことができる。	3	4.7
②日常生活や自分のふるさと、自分の経験について紹介する文章を書くことができる	15	23.4
③職場の同僚や学校の先生、家族に要件を伝える簡単なメモなどを書くことができる	13	20.3
④名前や国名、住所などが書ける	27	42.2
⑤ほとんど書けない	6	9.4
計	64	100.0

問9 あなたは日本語が不自由なために、困ったことがありますか。特に困った場面を3つまで選んでください。

	回答数	%
①近所付き合いで	15	23.4
②電車やバスに乗るとき	4	6.3
③買い物で	10	15.6
④役所の手続きで	36	56.3
⑤郵便局・銀行での手続きで	31	48.4
⑥仕事を探すとき	16	25.0
⑦仕事で	27	42.2
⑧病気になったとき	29	45.3
⑨学校や幼稚園等のやりとりで	10	15.6
⑩困ったことはない	0	0.0
⑪その他 ・メールの対応 ・緊急時に情報を入手することが難しい	2	3.1

[回答者の属性について]

問10 居住している市町

	回答数	%
四日市市	30	46.9
桑名市	12	18.8
津市	9	14.1
鈴鹿市	8	12.5
亀山市	1	1.6
松阪市	1	1.6
川越町	1	1.6
無回答	2	3.1
計	64	100.0

問11 性別

	回答数	%
①男	28	43.8
②女	36	56.3
③答えたくない	0	0.0
計	64	100.0

問12 年齢を教えてください。

	回答数	%
①～19歳	1	1.6
②20～29歳	19	29.7
③30～39歳	27	42.2
④40～49歳	9	14.1
⑤50～59歳	7	10.9
⑥60～69歳	1	1.6
⑦70歳～	0	0.0
⑧答えたくない	0	0.0
計	64	100.0

問13 出身

	回答数	%
①ブラジル	3	4.7
②ベトナム	20	31.3
③中国	16	25.0
④フィリピン	1	1.6
⑤韓国	0	0.0
⑥ペルー	7	10.9
⑦インドネシア	6	9.4
⑧タイ	2	3.1
⑨ネパール	0	0.0
⑩ボリビア	1	1.6
⑪その他 ・アメリカ(2) ・インド(1) ・カナダ(1) ・ジンバブエ(1) ・スペイン(1) ・台湾(1) ・メキシコ(1)	8	12.5
⑫答えたくない	0	0.0
計	64	100.0

問14 在留資格

	回答数	%
①永住者	13	20.3
②技能実習	10	15.6
③定住者	12	18.8
④特別永住者	0	0.0
⑤日本人の配偶者等	4	6.3
⑥技術・人文知識・国際業務	12	18.8
⑦家族滞在	9	14.1
⑧答えたくない	2	3.1
⑨その他(自由記述) ・宗教(1) ・記述なし(1)	2	3.1
計	64	100.0

問15 通算でどのくらい日本で生活していますか。

	回答数	%
①1年未満	7	10.9
②1年以上3年未満	23	35.9
③3年以上5年未満	11	17.2
④5年以上	22	34.4
⑤答えたくない	1	1.6
計	64	100.0

問16 今後も日本で生活する予定ですか。

	回答数	%
①帰国する予定	7	10.9
②住み続ける	30	46.9
③まだ決めていない／わからない	23	35.9
④答えたくない	4	6.3
計	64	100.0



問16-2 (①を選択した人へ)いつぐらいですか。

	回答数	%
2020年11月	1	14.3
2020年12月	1	14.3
2021年	1	14.3
1年後	1	14.3
2022年3月	1	14.3
2023年9月	1	14.3
3~5年後	1	14.3
計	7	100.0

問16-3 (②を選択した人へ)どのぐらいですか。

	回答数	%
10年	3	10.0
できるだけ長く	3	10.0
まだ決めていない	3	10.0
5年以上	2	6.7
4~5年	1	3.3
4年	1	3.3
5年以内	1	3.3
5~10年	1	3.3
60歳になるまで	1	3.3
生涯	1	3.3
無回答	13	43.3
計	30	100.0

問17 現在、仕事をしていますか。

	回答数	%
①している	47	73.4
②していない	8	12.5
③仕事を探している	6	9.4
④答えたくない	2	3.1
⑤その他(自由回答) ・記述なし	1	1.6
計	64	100.0

問17-2 (①を選択した人へ)どんな仕事をしていますか。

	回答数	%		回答数	%
アルバイト・パート、英語の先生(ALT含む)、機械加工・検査	各3	各6.4	ホテルの接客、介護、検査、現場、設計、調達・購買、翻訳・通訳、カスタマーサービス、とび職、発砲スチロールの製品、ブラジル人支援	各1	各2.1
スーパー・コンビニ、メンテナンス、レストラン、技術、工場、組み立て	各2	各4.3	無回答	15	31.9
計				47	100.0

問17-3 (③を選択した人へ)どんな仕事を探していますか。(自由記述)

	回答数	%
座って仕事ができ、日本語がそれほど必要のない仕事	1	16.7
英語の先生	1	16.7
どんな仕事でも	1	16.7
無回答	3	50.0
計	6	100.0

【その他】

問18 このアンケートの回答内容について、後日インタビューに協力していただけますか。

	回答数	%
①はい	38	59.4
②いいえ	26	40.6
計	64	100.0

問19 2021年1月～2月頃に、日本語教室の開催を予定しています。興味がありますか。

	回答数	%
①はい	54	84.4
②いいえ	9	14.1
無回答	1	1.6
計	64	100.0

問20 ご自宅にインターネット環境がありますか。

	回答数	%
①はい	61	95.3
②いいえ	3	4.7
計	64	100.0

問21 インターネットが使用可能な次の機材をお持ちですか。(複数回答)

回答	回答数	%
①パソコン	40	62.5
②スマートフォン	56	87.5
③タブレット	16	25.0
④持っていない	1	1.6
⑤その他	0	0.0

G(日本語学校や日本語教室に通っていない外国人住民)およびH(日本語教室の学習者)の結果を比べると、概ね同様の傾向が見られた。日本語学習の主な目的は、「日本での生活および日本人との交流」「仕事」「日本語能力試験」「子育て」に分類できる。

日本語能力は自己評価ではあるが、GおよびH合わせた全体で、「聞く」については「③相手がゆっくり話せば聞いて、理解できる」、「話す」は「③簡単な日常会話ができる」、「読む」は「④絵の付いた簡単な指示(ごみの捨て方、料理の作り方など)が分かる」、「書く」は「④名前や国名、住所などが書ける」レベルとなった。読み書きについては、Hはより難しいレベル「②役所や学校、職場からの手紙やお知らせを読んで、少し理解できる」「②日常生活や自分のふるさと、自分の経験について紹介する文章を書くことができる」の回答が多くなった。このことは、主に「役所の手続きで」「郵便局・銀行での手続きで」「仕事で」「病気になったとき」に日本語に困る外国人住民とコミュニケーションをする際に、どのように「やさしい日本語」を使えばよいのか考える上で、参考になるとと思われる。

## 【資料】

### ■ 三重県日本語教育実態調査ワーキング

#### 1. 会議日程と内容

日付	内容
令和2年5月30日(土)	日本語教育実態調査についての検討
令和2年6月27日(土)	調査票の検討
令和2年7月18日(土)	調査票の検討
令和2年8月25日(火)	調査票の検討
令和3年1月25日(月)	日本語教育実態調査の結果分析

#### 2. 委員名簿(50音順、敬称略)

氏名	職名等
喜屋武 カストロ アベル 勇	株式会社ジャパンリビングサポート 代表取締役
服部 明子	三重大学 教育学部 准教授
早野 実花	株式会社ジャパンリビングサポート 取締役
フェンテス ラム ジェイ	株式会社スカイネット 人材コーディネーター

#### 3. 事務局

氏名	職名
小川 知佐子	三重県 環境生活部 ダイバーシティ社会推進課 多文化共生班副課長兼班長
加藤 桂子	三重県 環境生活部 ダイバーシティ社会推進課 多文化共生班主幹兼係長
北村 文明	公益財団法人三重県国際交流財団 常務理事兼事務局長
宇藤 美帆	公益財団法人三重県国際交流財団 国際教育課 課長
猪狩 英美	公益財団法人三重県国際交流財団 国際教育課 専門員 地域日本語教育総括コーディネーター
奥村 恵美	公益財団法人三重県国際交流財団 国際教育課 専門員

### ■ 日本語教育実態調査票(別冊)

## 令和2年度 三重県日本語教育実態調査 報告書

2021年(令和3年)2月

公益財団法人三重県国際交流財団(MIEF)

〒514-0009 津市羽所町700番地

(アスト津3階 みえ県民交流センター内)

TEL:059-223-5006

FAX:059-223-5007

<http://www.mief.or.jp>

E-mail:mief@mief.or.jp